科目名（英）	人間の尊厳と自立 Comprehension of Human	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	黒澤　芳恵
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜　4限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**

本科目は、介護福祉職としての本質や倫理観を学ぶ基礎的な科目であり、利用者や家族等に対して多面的に理解を深める重要性について考えながら受講してほしい。福祉理念を理解し、人権尊重や権利擁護の考え方を養うとともに、利用者の尊厳の保持や自己決定の考え方を理解するする内容とする。講義での学びとともに個人ワークやグループワーク等の演習も行い、その中で一人ひとりが考え、また互いに意見を交わしながら理解を深めてほしい。

【到達目標】

介護実践のために必要な利用者、家族、多職種等の人間への理解を深め、配慮することができる。
介護福祉職として尊厳を守り、自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題に対応する基礎的能力を養うことができる。
人権思想、福祉理念の歴史的変遷を理解し、人権尊重や権利擁護の考え方を身に付けることができる。

【使用教科書・教材・参考書】

・新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」中央法規
・「介護福祉士国家試験ワークブック2023上」中央法規

【授業外における学習】

教科書やワークブックの次回の範囲を読み、予習をしてくること。また授業後もノートやプリントを振り返る等の復習をし、学んだことを確認すること。

回	授　業　概　要
1	【到達目標】 前期の授業の進め方、評価の方法を理解する。 「自分」という人間について表現することができる。 【授業内容】 オリエンテーション 「人間を理解すること」の意味とは
2	【到達目標】 人間を理解するということの意義について学び、利用者主体の実現に必要な要素を理解する。 【授業内容】 人間の尊厳の意義 利用者主体の考え方
3	【到達目標】 世界や日本で人権思想が誕生した経緯を理解できる。 尊厳と自立に関する歴史を理解する。 【授業内容】 世界と日本の人権思想の歴史的展開
4	【到達目標】 戦前から戦後、現代までの人権や福祉理念の変遷について理解し、介護福祉士としての倫理観との関連を考える。 【授業内容】 世界と日本の人権思想の歴史的展開
5	【到達目標】 現代社会が抱えるさまざまな人権に関する課題を理解し、より人間らしく生きることの意義を考える。 【授業内容】 福祉的課題の変遷
6	【到達目標】 現代における介護、福祉の分野での新たな福祉理念について理解できる。 【授業内容】 現代の福祉理念 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、エンパワメント等
7	【到達目標】 社会福祉活動の歴史と背景を学び、さまざまな社会福祉活動家とその活動内容について理解する。 【授業内容】 社会福祉活動の歴史的経緯、意義、活動家について
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。 【授業内容】 授業の振り返りとまとめ、中間試験、解答解説
9	【到達目標】 介護を必要とする人の生活と人権について理解できる。 専門職として必要な権利擁護の重要性を理解する。 【授業内容】 介護における権利擁護と人権尊重 利用者の人権と生活
10	【到達目標】 権利侵害（消費被害、ハンセン病など）の実例や実態とその防止について理解する。 【授業内容】 権利侵害の実際① 消費被害、ハンセン病の歴史
11	【到達目標】 権利侵害（高齢者虐待など）の実例や実態とその防止について理解する。 【授業内容】 権利侵害の実際② 高齢者虐待
12	【到達目標】 自立の概念の多様性を学び、自立とはどのような状態をいうのか表現することができる。 【授業内容】 自立のあり方 いろいろな視点からみた自立
13	【到達目標】 介護を必要とする人の自立と自立支援について理解できる。 自己決定、自己選択の意味を具体的に理解する。 【授業内容】 介護における自立支援の理論① インフォームドコンセント、アドボカシー、リビング・ウィル等
14	【到達目標】 自立した生活を支えるための視点について理解する。 事例について考え、クラスで共有できる。 【授業内容】 介護における自立支援の理論② 事例検討
15	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、疑問などを解消し、学習内容をより深めることができる。 【授業内容】 授業の振り返りとまとめ、前期試験、解答解説

【特記事項】

毎授業において、板書したことやパワーポイント等を必ず記録すること。
事例検討や演習等では、自分の意見の表明を望む。

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	人間関係とコミュニケーション Relationships and Communication	必修選択	必須	年次	1	担当教員	吉江孝行
学科・コース	介護福祉学科	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 火曜3限

【実務経験】
特別養護老人ホームで介護職員（3年）・生活相談員（10年）・施設長（15年）としての職務とこの科目の講師（1年）それぞれの実務

【授業の学習内容】
・上記の実務経験を活かして、以下のコミュニケーションの基礎的な知識や技術を講義と演習で学ぶ。
1　人間関係とコミュニケーション（4回）
2　対人関係とコミュニケーション（3回）
3　対人援助関係とコミュニケーション（3回）
4　組織におけるそれぞれのコミュニケーション（3回）

【到達目標】
・上記のコミュニケーションの基礎的な知識や技術を理解する。

【使用教科書・教材・参考書】
・新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」、「介護福祉士国家試験ワークブック上」、「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」 中央法規

【授業外における学習】
予習と復習

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 1　人間関係とコミュニケーション（4回） ・人間関係の形成に必要な自己覚知や自己開示について学ぶ ・人間関係のなかで自分と他者を理解するということを学ぶ 【授業内容】 （1）人間の誕生と介護の関係 （2）自分と他者の理解	9	【到達目標】 3　対人援助関係とコミュニケーション（3回） ・人間関係の発展や後退とコミュニケーションのあり方について学ぶ 【授業内容】 （1）対人関係の基本となる人間関係とコミュニケーション
2	【到達目標】 ・人の発達にともなう、人間関係の広がりを学ぶ 【授業内容】 （3）発達心理学からみた人間関係	10	【到達目標】 ・円滑なコミュニケーションをはかるうえでの配慮について学ぶ 【授業内容】 （2）対人援助における基本的態度
3	【到達目標】 ・人はどのように他者や集団とかかわりながら成長するのかを学ぶ 【授業内容】 （4）社会心理学からみた人間関係	11	【到達目標】 ・援助者としてのコミュニケーションの基礎について学ぶ 【授業内容】 （3）援助的人間関係の形成とバイステックの7原則
4	【到達目標】 ・人はどのように他者や集団とかかわりながら成長するのかを学ぶ 【授業内容】 （5）人間関係とストレス	12	【到達目標】 4　組織におけるそれぞれのコミュニケーション（3回） ・組織の存在とコミュニケーションの特徴について学ぶ 【授業内容】 （1）組織の条件とコミュニケーションの特徴
5	【到達目標】 2　対人関係とコミュニケーション（3回） ・コミュニケーションの特性や構造について学ぶ 【授業内容】 （1）コミュニケーションの概念 （2）コミュニケーションの基本構造	13	【到達目標】 ・組織における情報の流れを理解する 【授業内容】 （2）組織における情報の流れ
6	【到達目標】 ・言語的コミュニケーションについて学ぶ 【授業内容】 （3）コミュニケーションの手段（言語）	14	【到達目標】 ・組織においてどのようなコミュニケーションが求められるかを学ぶ 【授業内容】 （3）組織において求められるコミュニケーション
7	【到達目標】 ・非言語的コミュニケーションについて学ぶ 【授業内容】 （3）コミュニケーションの手段（非言語）	15	【到達目標】 対人援助関係とコミュニケーション、組織におけるコミュニケーションを再確認する 【授業内容】 筆記試験
8	【到達目標】 人間関係とコミュニケーション、対人関係とコミュニケーションを再確認する 【授業内容】 筆記試験		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	職業人教育 Professional Training Lecture	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	奥畑・保住
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	前　期 金曜　　２限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
看護師、介護福祉士として就業した専任教員として、社会に出た時に活躍できる人材となるよう授業を進めていく。

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**
”職業人教育”とは、社会に出た時に即戦力として活躍できるような人材を育成すること。授業内では、個人ワークやグループワークを行うことがある。
社会に出た時は、専門知識・技術以外にも人とのコミュニケーションが大事になりますので、ひとりひとりが積極的・協力的に参加することが大切である。
どんな仕事でも一人では行えません。チームで行うことが大半ですので、職業人になるための『身構え』・『気構え』・『心構え』を学ぶ。

【到達目標】
①社会人として求められる立ち振る舞い（挨拶・返事・言葉遣い・環境整備・時間管理）について理解するとともに、日常生活でも実践できるようになる。
②振り返るを重ねることで、自分の気持ちを文字で書いて伝えることができる。
③学生生活のスケジュール管理を自らできるようになる。

【使用教科書・教材・参考書】
Hand book of Life style

【授業外における学習】

回	授　業　概　要
① 4/11	【到達目標】 ・(前期)　職業人教育の目的・内容・流れが理解できる。 ・導入教育の復習をし、学則・学年歴を理解できる。 【授業内容】 ・職業人教育オリエンテーション　(前期) ・導入教育の振り返り
② 4/21	【到達目標】自分のことを知り、伝えるために（1） ・今までの人生を振り返り、印章に残っていることを書く事ができる。 【授業内容】 ・自分年表を作成し、自分年表を使って自分の言葉で伝える。
③ 4/28	【到達目標】自分のことを知り、伝えるために（2） ・自分年表から自分の成長した点を見つけることができる。 ・自己PR作成のコツを知り、書く事ができる。 【授業内容】 ・自己PRを作成する。 ・文章作成の流れ、コツを知る。
④ 5/12	【到達目標】社会人に向けての基礎知識（1） ・ビジネスや実習でも必ず使用する手紙の書き方を理解できる。 ・ハガキ、封筒の正しい書き方を学び、実践できる。 【授業内容】 ・ハガキや封筒の書き方を学ぶ。 実際に記入し、バランスの良い書き方を理解する。
⑤ 5/19	【到達目標】社会人に向けての基礎知識（2） ・一人暮らしのための部屋探しの方法を学ぶ。 ・インターネットを使って実際に部屋を探すことができる。 【授業内容】 ・将来、一人暮らしをする際に必要な知識を学ぶ。 ・スマホを使っての部屋探しを体験する。
⑥ 5/26	【到達目標】社会人に向けての基礎知識（3） ・社会人としての健康管理を学ぶ。 【授業内容】 ・健康診断の内容と数字をチェック ・健康的な生活を送るために
⑦ 6/2	【到達目標】 ・災害・事故から身を守る知識を持つことができる。 【授業内容】 ・地震・火災など災害非常時の心得について
⑧ 6/9	【到達目標】 ・中間試験を実施し、今までの授業を振り返る。 【授業内容】 ・中間試験の実施（1～7回目までの振り返り）
⑨ 6/16	【到達目標】介護福祉職のマナー① ・良い接遇が、良い人間関係を作り上げることを学ぶ 【授業内容】 ・良い接遇とは ・接遇に必要な要素「人間性　＋　仕事の能力」
⑩ 6/23	【到達目標】介護福祉職のマナー② ・サービス向上と顧客満足度について理解する。 【授業内容】 ・良いサービスとは ・サービスサイクルと出会いの決定的瞬間
⑪ 6/30	【到達目標】職業実践① デイサービスで活用できる脳トレを実践することができる。 【授業内容】 ・デイサービスの現場実習でも活用できる脳トレ（レクリエーション）を実践し、学ぶ。
⑫ 7/7	【到達目標】職業実践② オレンジカフェの実践に向けて企画・運営力を知る。 利用者の時代背景を知ることができる。 【授業内容】 ・オレンジカフェ概要 ・利用者の時代背景を調べる。
⑬ 7/14	【到達目標】職業実践③ 利用者の時代背景を発表することができる。 【授業内容】 ・グループで調べた時代背景を発表。 ・他のグループの発表を聞き理解する。
⑭ 7/21	【到達目標】 ・オレンジカフェの実践に向けて企画運営力を知る。 ・夏休みの課題について理解することができる。 【授業内容】 ・オレンジカフェの実施に向けて ・夏休みの過ごし方と注意事項の共有
⑮ 7/28	【到達目標】 定期試験を実施し、前期を振り返ることで、成長した部分に気付くことができる。 【授業内容】 ・前期を振り返り、自分の言葉で文章にすることができる。 ・後期に向けてのオリエンテーション

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	介護の基本 Basic nursing care	必修選択	必修	年次	1年生	担当教員	坪田　大仁
学科・コース	介護福祉科	授業形態	講義	総単位時間	60時間	開講区分 曜日・時間	前期 木曜　1・2　限

【実務経験】
通所や居宅介護支援事業所の管理者として9年間従事する。また、世代間交流の場や自費サービスの事業展開を行うなど、介護が果たす地域貢献についても取り

【授業の学習内容】
通所介護事業所の管理者や介護支援専門員として、様々なケースのご利用者様を支援してきました。これらの経験から、「正しい情報理解（アセスメント力）」の重要性や「状況に応じた対応力（応用力）」の必要性」を強く感じました。授業にあたっては、一方的な情報伝達に留まらず、情報をどのように活用するのか？といった視点も大切に「考える機会」を多用し、現場実践において必要な力が身につけられるよう学習を進めていきます。

【到達目標】
①介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての求められる姿勢・態度を身につけよう。
②介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識を習得しよう。

【使用教科書・教材・参考書】
「2023介護福祉士国家試験　受験ワークブック　上・下」
「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2023」中央法規（参考）

【授業外における学習】
介護に関する専門的な用語についてはあらかじめ予習してくること。授業後にも、使用したプリントなどを復習し、授業内容を身につけること。

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 授業の進め方と評価の方法について理解することができる。 介護を取り巻く環境について捉えられる。 【授業内容】 オリエンテーションの実施 介護業界に求められるニーズや課題について理解する。	9	【到達目標】 自立支援についての考え方が理解できる。 その上で必要なケアの在り方を捉える。 【授業内容】 尊厳を支える介護について② 個別ケアについて
2	【到達目標】 介護が社会問題となっている状況を整理・理解できる。 我が国における介護福祉制度の変遷について理解できる。 【授業内容】 介護福祉士を取り巻く状況①	10	【到達目標】 多職種連携とは何か？その必要性が理解できる。 【授業内容】 IPW・IPEについて
3	【到達目標】 介護福祉士が国家資格となっていく過程を理解できる。 【授業内容】 介護福祉士のを取り巻く状況②	11	【到達目標】 介護福祉士以外の専門職の領域が理解できる。 連携の基本となる知識や視点が理解できる。 【授業内容】 協働する多職種の役割と機能①（看護・リハビリテーション）
4	【到達目標】 多様化する介護福祉士の役割を整理し、具体的にどのような「場」でその力が求められているのかが理解できる。 【授業内容】 介護福祉士の役割と機能	12	【到達目標】 介護福祉士以外の専門職の領域が理解できる。 連携の基本となる知識や視点が理解できる。 【授業内容】 協働する多職種の役割と機能②（ソーシャルワーク）
5	【到達目標】 介護福祉に関連する法制度の概要が理解できる。 【授業内容】 介護福祉に関連する法律について	13	【到達目標】 ICFの概要、ICIDHとの違いが理解できる。 ICFの構成要素が示す意味が理解できる。 【授業内容】 介護福祉の基本原則①
6	【到達目標】 「尊厳」とは何か、「利用者主体」とは何かを理解できる。 【授業内容】 介護福祉の基本となる理念について	14	【到達目標】 対象者が日常生活を維持するために必要な知識を身に付けることができる。ADL・IADL・QOLについて説明できる。 【授業内容】 介護福祉の基本原則②
7	【到達目標】 多様な個性を持つ利用者の尊厳について理解できる。 「尊厳」を大切にした関わり方について必要なことを理解できる。 【授業内容】 尊厳を支える介護について①	15	【到達目標】 授業の振返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 期末試験、解答解説
8	【到達目標】 授業の振返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	コミュニケーション技術 Communcation technology	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	社会福祉法人 欣彰会 栃木幸子 栗原法子
学科・コース	介護福祉科	授業形態	演習	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 水 曜日 3 限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
高齢者施設で介護職・相談職として20年以上勤務経験あり

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**
法人設立38年を迎える特別養護老人ホーム・デイサービスにおいて、介護福祉士、相談員、介護支援専門員など担い、20年以上にわたり実務経験を重ね現在に至る。これまでの経験知を踏まえ、介護における基本的なコミュニケーションの意義や目的を理解し、様々なニーズをもった利用者・ご家族、,多職種やチーム内の関係構築が図られるように、状態や状況に応じたコミュニケーション、介護実践に必要なコミュニケーション技術を習得できる学習を行う。

【到達目標】
コミュニケーションの意義や援助関係の構築、傾聴、受容、言語、非言語コミュニケーションなど、介護を実践する際の基本となるコミュニケーションについての考え方や技術を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】
介護福祉士国試ナビ 2023 中央法規
介護福祉士国家試験受験ワークブック 上 2023 中央法規

【授業外における学習】
国試ナビワークブックによる予習、プリントや小テスト等を用いて復習し、知識・技術を身につける。

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【到達目標】 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について知る。 演習を通して、コミュニケーションの大切さを理解する事ができる。 【授業内容】 オリエンテーション、講義、演習（自己紹介）、小テスト	9	【到達目標】 介護を必要とする人とのコミュニケーションを学ぶ。利用者の意欲低下のサインと背景を知り、意欲を引出す方法を学ぶ。 【授業内容】 講義 演習 小テスト
2	【到達目標】 コミュニケーションの過程・手段を学び、言語・非言語・準言語コミュニケ―ションを理解する事ができる。 【授業内容】 講義 演習 小テスト	10	【到達目標】 介護を必要とする人とのコミュニケーションを学ぶ。利用者の意向と家族の意向が一致するよう支援する方法を学ぶ。 【授業内容】 講義 演習 小テスト
3	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術として、対人距離について理解する事ができる。 【授業内容】 講義 演習 小テスト	11	【到達目標】 コミュニケーション障害への対応の基本を知る。聴覚・視覚障害がある人とのコミュニケーションについて理解する。 【授業内容】 講義 演習 テスト
4	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術として、傾聴の意義と手法を理解する事gできる 【授業内容】 講義 演習 小テスト	12	【到達目標】 構 音障害のある人に対する支援方法を学ぶ。 失語症のある人に対する支援方法を学。 【授業内容】 講義 演習 テスト
5	【到達目標】 コミュニケーション態度に関する基本技術として、主な傾聴技法を体験する事で、適切な方法を理解する事ができる。 【授業内容】 講義 演習 小テスト	13	【到達目標】 認知症がある人とその家族の日常について理解する事ができる。 センター方式、パーソンセンタードケア、ユニマチュードを知る。 【授業内容】 講義 演習 小テスト
6	【到達目標】 援助関係を意識した対象者とのコミュニケーションを理解する。 バイステックの7原則について知る事ができる。 【授業内容】 講義 演習 小テスト	14	【到達目標】 統合失調症のある人とのコミュニkーションの方法や 支援方法を知る。 【授業内容】 講義 演習 小テスト
7	【到達目標】 目的別のコミュニケーション技術を学び、ものの見方に変化を生み出す技法を経験し理解を深める 【授業内容】 講義 演習 小テスト	15	【到達目標】 これまで学習したことの総まとめとして、定期試験問題を解く事ができる。できなかった問題を把握し、正しい知識とする事ができる。 【授業内容】 定期試験 解答解説
8	【到達目標】 これまでの授業から、試験問題を解く事ができる。できなかった問題を把握し、正しい知識とする事ができる。 【授業内容】 中間試験、解答b解説		

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数 89～80点＝B評価
点数 79～70点＝C評価
点数 69～60点＝D評価
点数 59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	生活支援技術Ⅰ Nursing care skills Ⅰ	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	古市 文子
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 水 曜 1 限 ・2 限

【実務経験】**(担当する授業科目に関連した実務経験)** 介護福祉士・社会福祉主事任用・介護支援専門員資格取得。
老人福祉施設(20年以上勤務)の従来型とユニットケアにてリーダー経験、実習指導者としての役割、現在介護長の役職で管理職。

【授業の学習内容】**(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)**
福祉施設での経験から地域で暮らす高齢者・障害者、施設生活の方が尊厳を保持し、その人らしい自立，自律を尊重し個別のニーズに対応できる安心のある生活支援となる知識・技術を学ぶ。 生活支援の意義や目的、ICFの視点、生活を多角的に支えるための多職種との連携チームアプローチのあり方を学ぶ。 自立に向けた居住環境、家事、福祉用具の基礎知識・技術を学ぶ。災害時における生活支援や、緊急時対応、応急手当の基礎的知識・技術を学ぶ。

【到達目標】
目指す介護福祉士としての感性を持って、個別性を理解した介護実践にいかすことができる基礎的な知識・技術を学ぶ。
・ICFの視点で利用者を捉え、自立に向けた生活支援、その人らしさの個別性を理解することができる。
・家事支援を行うための基礎知識と、多職種の役割を理解することができる。 ・高齢者に起こりやすい事故と予防、緊急時対応ができる。

【使用教科書・教材・参考書】
介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規)
見て覚える！介護福祉士国試ナビ(中央法規)

【授業外における学習】
コマシラバスに記載しているワークブック、国試ナビの該当ページを読み、予習する。授業後は小テスト、プリントで復習を行い覚えておくこと。

回	授 業 概 要
1	【到達目標】 生活支援の基本的な考えを理解することができる。 【授業内容】 介護福祉士としてその人の生活を理解し、その人らしさの自己決定や生活の質を高める支援を考える
2	【到達目標】 生活支援のポイントや、心身の状態に応じた生活支援を理解することができる。 【授業内容】 生活を、継続していく為の自立の支援、自己決定を尊重、潜在能力を引き出す支援等について
3	【到達目標】 ICFの視点をもって利用者を理解することができる。 【授業内容】 ICFの視点で利用者を見て、個別性を理解し、その人にあった介護を実践する重要性について
4	【到達目標】 利用者主体の実践に向け、利用者尊重の自立支援を理解することができる。 【授業内容】 利用者が安心できる支援の対応方法と、その人を知る観察の重要性を学び、利用者主体の介護について
5	【到達目標】 生活支援におけるチームアプローチの重要性を理解することができる。 【授業内容】 チームアプローチにかかわる職種、役割、連携について ライフステージと、チームアプローチについて
6	【到達目標】 住まいの役割、居住環境整備の意義と目的を理解する。 【授業内容】（演習） 住まいの役割とADLに適した居住環境整備の必要性 在宅生活、施設生活の環境
7	【到達目標】 衣服の縫製・被服のアイロン掛け支援の知識と実践を行うことができる。 実習用ズボンの裾上げをして快適な履き心地を実感する 快適な室内環境を整備するための基本的事項と、加齢変化に伴う注意点について
8	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り問題に答えることができる。わからない問題から、今後の学びの課題とし意欲を持って復習する。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説
9	【到達目標】 住み慣れた地域での継続した生活の重要性を理解することができる。 快適な室内環境の整備について理解することができる。 【授業内容】 快適な室内環境を整備するための基本的事項と、加齢変化に伴う注意点について
10	【到達目標】 安全に暮らす為の生活環境整備と災害時に対する備えを理解することができる。 【授業内容】 日常生活が安全に過ごすことのできる重要性を捉えた住宅改修 火災・地震などの非常時に対する備えについて
11	【到達目標】 地域包括ケアシステムを理解しノーマライゼーションの理念を理解し環境整備を考えることができる。 【授業内容】 住宅のバリアフリー、ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーション、地域包括ケアシステム等について
12	【到達目標】 居住環境整備にかかわる職種とその役割、チームケアのあり方を理解することができる。 【授業内容】 多職種の役割りと介護福祉職との連携を事例を通して考える
13	【到達目標】 福祉用具を使用する意義を理解し、その人らしい生活への役割りに繋げることを理解することができる。 【授業内容】 それぞれの福祉用具の特徴や、日常生活の自立を支援する等、公的制度におけるサービスの理解
14	【到達目標】 福祉用具の種類と環境整備について理解することができる。 【授業内容】 福祉用具のリスクとリスクマネジメント・福祉用具を選ぶためのアセスメントとモニタリングの視点について
15	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り、問題に答えることができる。わからない問題は今後の課題とし、復習する。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、定期試験、解答解説

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数 89～80点＝B評価
点数 79～70点＝C評価
点数 69～60点＝D評価
点数 59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

【特記事項】
介護、福祉関連の情報を新聞やネット等で関心を持っていて欲しい。
配布資料は、保管すること。

科目名（英）	生活支援技術Ⅱ Nursing care skills Ⅱ	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	月曜：窪田、田村、保住 水曜日：田村、保住
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	演習	総単位時間	90時間	開講区分 曜日・時間	前期 月曜1,2限/3,4限　水曜1限/2限

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)
介護福祉士として、就業した講師、専任教員が技術、知識を学生に還元し、プロの介護福祉士の育成を行う。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)
自分も相手も大切する介護サービスを学ぶ。介護福祉士の介護技術や気遣いの理由を知り、
何故、なんでという根拠を理解することが、相手の立場に立った優しい介護になることを学習する。
介護は生活であり、生きていく中で誰もが関係していくことになる。人間らしい生活をするために、多くの人と関わること、多くの人で1人を支える重要さを学ぶ。

【到達目標】
・『相手も自分も大切にする介護』をするためには、すべてにおいて根拠があることを理解し、知識・技術を習得し説明する能力が身に着けることができる。
1次実習に向かい実際介護をすることを想定して、より現場に近い介護技術・知識を習得することができる

【使用教科書・教材・参考書】
介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規)
見て覚える!介護福祉士国家試験ナビ(中央法規)

【授業外における学習】
次回授業に関係あるキーワードをいくつかTeamsで知らせ自分なりに調べてTeamsで解答してもらう。

回	授業概要
1 ①4/10 ②4/12	【到達目標】 ①介護実習室の使用方法と実技実習授業のルールを知る ②生活支援技術の進み方と介護職として感染予防の大切さを理解する 【授業内容】 ①実習室の使用方法とオリエンテーション ②オリエンテーション・感染予防の意義目的が理解できる(p299-p300)
2 ①4/17 ②4/19	【到達目標】 ①感染予防の重要性、実践に向けた感染症対策を知る ②介護はパワーでなくコツであることを学ぶ(ボディメカニクスや福祉用具) 【授業内容】 ①手洗い・うがい、手袋、マスク等、介護現場での感染症対策の実践 ②ボディメカニクスを学ぶ(P27)
3 ①4/24 ②4/26	【到達目標】 ①介護はパワーでなくコツであることを実践で学ぶ ②身じたくとは？身じたくを整えることの大切さ、心とのつながりを知る 【授業内容】 ①ボディメカニクスを実践する ②身じたくとは、何か？身じたくが整っていないときの心理状況を考える(P35,37-39)
4 ①5/8 ②5/10	【到達目標】 ①清潔であることの重要さと介護職としての気遣い知識を学ぶ ②洋服を着ること、選ぶことの大切さを考える 【授業内容】 ①ベッド周りを整える(シーツ交換)、口腔ケア(歯磨きの介助) ②どんな生地の洋服が、肌にはいいのか学ぶ(P39-40)
5 ①5/15 ②5/17	【到達目標】 ①より簡単に着替える方法を知る ②自分で着替えることの大切さを学ぶことができる 【授業内容】 ①前開き、かぶりの洋服の着替え ②麻痺の種類を学ぶ、利用者さんに合わせた着替え(P40-P42)
6 ①5/22 ②5/24	【到達目標】 ①病気に合わせた着替えの介助方法と自分でも着られる方法を知る ②車いすの名称や気を付けることを学ぶ 【授業内容】 ①麻痺や疾患に合わせた着替えの方法、気を付けることを学ぶ ②車いすの名称や介助する際の注意体位等を学ぶ(P31-P32)
7 ①5/29 ②5/31	【到達目標】 ①車いす利用者の気持ちと介助方法を学ぶ ②6回までの授業も再度確認し、記憶を定着することできる 【授業内容】 ①車いすを操作する ②6回までの授業の復習と整理をする
8 ①6/5 ②6/7	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、試験(筆記試験、実技試験)に望むことができる 【授業内容】 中間試験(技術試験・筆記試験)
9 ①6/12 ②6/14	【到達目標】 ①外出をして実際の道での車いす介助の注意点を知る ②介護の専門用語を学び、多職種連携できる知識をつける 【授業内容】 ①車いすで外出をし段差・坂道等を体験する ②体位の名称を学ぶ
10 ①6/19 ②6/21	【到達目標】 ①お互い負担のない介助方法で寝ている姿勢から起きる動作を学ぶ ②移動介助が必要な方はどのような方でどんな介助が必要なのか考える 【授業内容】 ①仰臥位から立位までの動作 ②体位変換の重要性と廃用性症候群について学ぶ(P26-27)
11 ①6/26 ②6/28	【到達目標】 ①お互い負担の少ない移乗介助は安全安心にもつながることを学ぶ ②歩行介助が必要な方はどのような用具が安全に繋がるか知る 【授業内容】 ①移乗介助(スライディングボードやリフト等の使用も) ②歩行介助の方法を学ぶ(P29-30)
12 ①7/3 ②7/5	【到達目標】 ①杖歩行、ピックアップ歩行器等の介助方法を学ぶ ②視覚障害者の方が地域で暮らす環境を学ぶ 【授業内容】 ①杖歩行、ピックアップ歩行器等(装具の装着方法含む) ②視覚障害者の方の介助方法を学ぶ
13 ①7/10 ②7/12	【到達目標】 ①実際に視覚障害者の方の世界観を少しでも体験する ②自分で動くことの大切さ、動かなくなるリスクを理解する 【授業内容】 ①視覚障碍者の方の介助方法を学ぶ ②褥瘡って何？リスクや予防を学ぶ
14 ①7/17 ②7/19	【到達目標】 ①9回から13回までの授業を振り返り、応用できるよう自ら考える ②9回から13回までの授業を再度確認し、記憶を定着することができる 【授業内容】 ①事例を用いて、13回の授業を現場で実践できる力をつける ②13回までの授業の復習と整理をする
15 ①7/24 ②7/26	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、試験(筆記試験、技術試験)に臨むことができる 【授業内容】 定期試験(実技試験・筆記試験)

【特記事項】
①が実技(地下介護室で行う)授業、
②が座学(教室で行う)授業

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	介護過程 Care Work Process	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	田母神　由美
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	前　期 火 曜　　2 限

【実務経験】**(担当する授業科目に関連した実務経験)**
高齢者施設（入所、通所、在宅）や障害者施設（共同生活支援、就労支援、相談業務）など30年以上の実務経験もち現在も現場で支援を行っている。

【授業の学習内容】**(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)**
介護が必要とされる対象者自身が【望む生活】、【よりよい人生】を実現するため、専門的知識を活用し生活上の課題解決に向けて取り組むプロセスを学ぶ科目である。担当教員が実際に日常で起きている様々な事例や知識を生かし伝えることで、何を考えどのような生活を送りたいのかなど、相手の想いに寄り添い状態に合わせた自立支援の方法を理解してほしい。

【到達目標】
・介護過程の目的、意義を理解することができる。
・介護過程を展開する一連のプロセスを理解することができる。
・介護過程を展開するための情報共有の方法や各職種の役割を理解することができる。

【使用教科書・教材・参考書】
・介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規
・介護福祉士　受験ワークブック　2023下　中央法規

【授業外における学習】
専門的用語や小テストの内容など習得できているかを確認し授業に備える。

回	授　業　概　要
1	【到達目標】 介護になぜ介護過程が必要なのか、相手を知ることの大切さを理解することができる 【授業内容】 介護過程の意義と目的
2	【到達目標】 生活状態を知ることに必要な情報収集とは何かを学び、全体像の仕組みを理解することができる 【授業内容】 介護過程の全体像
3	【到達目標】 生活は現時点だけではなく、過去の生活の上に成立ち、現在の延長線上に未来がある、自分らしく生きる意味を理解できる 【授業内容】 生活支援における介護過程の必要性
4	【到達目標】 書式の名称や記載内容を確認し理解することができる 【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式①
5	【到達目標】 書類の種類を整理、理解し実際に記述することができる 【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式②
6	【到達目標】 記載情報を確認し共通理解する大切さを理解することができる 【授業内容】 介護福祉分野で使用する書式③
7	【到達目標】 介護過程の展開を示す4つのプロセス、それぞれの意味を理解することができる 【授業内容】 介護過程の展開
8	【到達目標】 介護過程の必要性、仕組みを理解することができる 【授業内容】 介護過程のまとめ・中間テスト
9	【到達目標】 ICF の考え方を活用した情報収集の方法を理解し、記載方法を理解することができる 【授業内容】 ICFの活用方法　事例①
10	【到達目標】 情報収集した内容を整理する方法を理解することができる 【授業内容】 ICFの活用方法　事例②
11	【到達目標】 アセスメントとは何かを理解し、望む生活を実現するための方法を理解することができる 【授業内容】 アセスメントの視点
12	【到達目標】 生活像からイメージを描き、アセスメントの視点を整理し関連づける方法を理解することができる 【授業内容】 アセスメントの実際
13	【到達目標】 情報収集した内容を整理し記載する方法を理解することができる 【授業内容】 情報の解釈・統合化
14	【到達目標】 自立、快適、安全の部分にどのような生活課題が生じているのかを検討し理解することができる 【授業内容】 生活課題の明確化
15	【到達目標】 前期の授業で学んだ理解度を確認し、不明な点は再度確認する 【授業内容】 定期試験・前期授業の振り返り

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	介護総合演習Ⅰ Basic nursing care	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	奥畑　田村　保住
学科・コース		授業形態	演習	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前 期 木 曜　　4 限

【実務経験】**(担当する授業科目に関連した実務経験)**
看護師、介護福祉士として就業した専任教員として、介護実践に必要な知識・態度を養う学習を行う。

【授業の学習内容】**(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)**
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。

【到達目標】
・介護実習の効果を上げると為、事前に実習する施設や事業所について理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。
・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うことができる。

【使用教科書・教材・参考書】
実習と記録　介護福祉士編　一般財団法人滋慶教育科学研究所
新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習（参考図書）

【授業外における学習】
実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。
実習日誌および実習課題等は期日を守り提出すること。

回	授　業　概　要
1 4/13	【到達目標】 授業の進め方を理解することができる。介護総合演習で何を学び、実習に向けて準備を主体的に行う意識を培うことができる。 【授業内容】 授業のオリエンテーション 介護総合演習の位置づけと目的
2 4/20	【到達目標】 介護総合演習で何を学ぶか理解する 【授業内容】 介護実習の意義と目的と種類 実習前の学びと、実習後の学びの活かし方
3 4/27	【到達目標】 実習前・中・後の学習の意義と目的を理解する。 【授業内容】 介護実習前・中・後の学習内容と方法① **※9月18日～バイト中止、頭髪チェック9月21日施行伝える**
4 5/11	【到達目標】 実習前・中・後の学習の意義と目的を理解する。 【授業内容】 介護実習前・中・後の学習内容と方法②
5 5/18	【到達目標】 実習前・中・後の学習の意義と目的を理解する。 【授業内容】 介護実習前・中・後の学習内容と方法③
6 5/25	【到達目標】 実習先の特徴、実習先での学びを理解する① 【授業内容】 通所介護・通所リハビリテーションの特徴と実習での学び
7 6/1	【到達目標】 実習先の特徴、実習先での学びを理解する② 【授業内容】 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設の特徴と実習での学び 実習先の実際
8 6/8	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 中間試験
9 6/15	【到達目標】 実習先の特徴、実習先での学びを理解する③ 【授業内容】 グループホーム・小規模多機能型居宅介護（看護小規模多機能型居宅介護）・経費老人ホーム・障害者支援施設・医療介護施設の特徴
10 6/22	【到達目標】 第1次実習に向けて準場ができる① 【授業内容】 第1次実習の目的 全体目標と個人目標の達成に向けて
11 6/29	【到達目標】 第1次実習に向けて準場ができる① 【授業内容】 1日の目標の立て方 実習日誌の書き方
12 7/6	【到達目標】 第1次実習に向けて準場ができる① 【授業内容】 実習日誌の書き方
13 7/13	【到達目標】 第1次実習に向けて準場ができる③ 【授業内容】 実習生紹介書作成
14 7/20	【到達目標】 第1次実習に向けて準場ができる④ 【授業内容】 実習生紹介書作成 実習で必要なマナー **※9月18日～バイト中止、頭髪チェック9月21日施行再周知**
15 7/27	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 定期試験 実習先への通学について

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	発達と老化の理解 Comorehension of growth and aging	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	白井良江
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 金 曜　3限

【実務経験】
大学病院内分泌代謝科・訪問看護・有料老人ホームに勤務し、看護師として25年以上の経験を持つ。

【授業の学習内容】
病院勤務から介護福祉施設まで、医療や介護にかかわる経験をいかし、イラストや写真を見ながら医学的基礎知識を説明する。実体験から、印象に残る話をまじえて伝える。老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響、それらに合わせてどのような対応や配慮が必要か、理解を深めてほしい。

【到達目標】
老化に伴う心身の機能変化が、高齢者の心理や日常生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。
老化に伴う心身の機能変化に合わせて、どのような対応や配慮が必要であるか理解を深められる。

【使用教科書・教材・参考書】
2023　介護福祉士国家試験　受験ワークブック　上
2023　介護福祉士国試ナビ

【授業外における学習】
「こころとからだのしくみ」と重複する点があるが、老化の視点からも理解を深める。

回	授　業　概　要
1	【到達目標】 授業の進め方と評価について・発達と老化の理解について学ぶ意義を理解することができる。発達の概念を理解できる。 【授業内容】 オリエンテーション・人間の成長と発達
2	【到達目標】 誕生から幼児期までの発達を理解できる。 【授業内容】 身体的・運動・言葉・社会的行動の発達
3	【到達目標】 ピアジェ、エリクソン、ハヴィガーストの発達理論を理解できる。 【授業内容】 発達段階説・発達課題
4	【到達目標】 老年期の定義について理解できる。 【授業内容】 老年期の定義・加齢・老化
5	【到達目標】 老年期の発達課題について理解できる。 【授業内容】 老性自覚・高齢者の喪失体験・サクセスフルエイジング・ アンチエイジング
6	【到達目標】 老化に伴う心身の変化の特徴を理解できる。 【授業内容】 形態的な変化と機能的変化・フレイル
7	【到達目標】 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響が理解できる。 【授業内容】 感覚の加齢変化
8	【到達目標】 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響が理解できる。 【授業内容】 中間試験 記憶
9	【到達目標】 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響が理解できる。 【授業内容】 記憶・知能
10	【到達目標】 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響・高齢者の疾病と生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 高齢者の心理・高齢者の症状、疾患の特徴・腹痛
11	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 骨・筋肉・関節
12	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 めまい・体重減少・食欲不振
13	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 咳・痰
14	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 浮腫・ふりかえり
15	【到達目標】 これまでの授業で学習した内容が定着する。 【授業内容】 定期試験 前期授業ふりかえり

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	認知症の理解 Comprehension of dementia	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	田嶋　知美
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 金曜　　1限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
特別養護老人ホームにて3年間介護職員として働き、その後もデイサービスや訪問マッサージ等での実務経験を持つ。

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**
福祉専門学校を卒業後、特別養護老人ホームにて介護職員として勤務し、その後も特別養護老人ホームやデイサービス、訪問マッサージなどで約5年の実務経験を持ち、現在も特別養護老人ホームにて介護職員として勤務している。本科目は認知症の本質や心理状態、特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得する。

【到達目標】
・認知症の方を取り巻く制度やサポート体制を理解し、活用方法を理解することができる。
・認知症に関する基礎的知識を取得し、認知症の方への対応や家族への支援方法を習得するできる。
・住み慣れた地域で認知症の方が暮らせるための環境について理解することができる。

【使用教科書・教材・参考書】
・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」（中央法規）
・「介護福祉士国家試験受験ワークブック」（中央法規）

【授業外における学習】
認知症に関わる専門用語や疾患名など聞きなれない言葉が出てくるため、予習を行い、配布資料もとに復習を行うこと。

回	授　業　概　要
1	【到達目標】 お互いの自己紹介を行うことでコミュニケーションをはかる。 認知症とは何かを知り、認知症の特徴を理解することができる。 【授業内容】 オリエンテーション　自己紹介 認知症とは何か
2	【到達目標】 脳の構造機能と症状の関係を理解できる。 【授業内容】 脳の仕組み①
3	【到達目標】 認知症と区別するべき状態を理解し老化に伴う脳の変化を知り、認知症との関連を理解できる。 【授業内容】 脳の仕組み②
4	【到達目標】 不安・喪失感を抱く理由を理解する。中核症状とは何かを理解する。 【授業内容】 認知症の人の心理 中核症状の理解①
5	【到達目標】 中核症状とは何かを理解する。代表的な中核症状と脳の病変部位との関係を理解できる。 【授業内容】 中核症状の理解②
6	【到達目標】 認知症の生活障害の重要性を理解する。IADL、ADL、参加の障害を理解できる。BPSDの定義と医学モデルであることを理解できる。 【授業内容】 生活障害の理解 BPSDの理解①
7	【到達目標】 BPSDのさまざまな背景要因や個々のBPSDの概要を知り理解できる。 【授業内容】 BPSDの理解②
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。分からない問題の洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説
9	【到達目標】 認知症の診断要件を理解する。認知機能と重要度の評価法を理解できる。 【授業内容】 認知症の診断と重要度
10	【到達目標】 アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について理解できる。 【授業内容】 認知症の原因疾患と症状・生活障害
11	【到達目標】 アルツハイマー型認知症治療薬、BPSDに対して用いられる薬について理解し、認知症の予防について学び、様々な危険因子等を理解できる。 【授業内容】 認知症の治療薬 認知症の予防
12	【到達目標】 認知症の人の扱われ方、その歴史、社会保障制度上の認知症の人の位置付けを理解することができる。 【授業内容】 認知症を取り巻く状況
13	【到達目標】 認知症ケアの理念と倫理について学び、　認知症の人の権利やかかわりについて理解できる。 【授業内容】 認知症ケアの理念と視点
14	【到達目標】 認知症の人の思いを理解し、支援内容を考えるための基本を学ぶ。認知症の人本位の介護とその基本的な視点を理解ができる。 【授業内容】 認知症当事者の視点から見えるもの
15	【到達目標】 これまでの授業で学習したことをもとに、問題に答えることができる。分からない問題の洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、期末試験、解答解説

【特記事項】
重要なポイントは必ずメモをとること。
配布資料を振り返りに活用すること。

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	こころとからだのしくみ Organization of mind body's	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	奥畑　幸一郎
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日　3限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
看護師として、病院で手術室・呼吸器、泌尿器、脳神経の内科病棟での経験を持つ。

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**

【授業の学習内容】
本科目は、介護の根拠となる人体の構造や機能を学ぶ。介護を行う上で、対象の安全への留意点や心理的側面への配慮について理解を目指していく。手術室勤務において、からだの構造を直に見た教員自身の経験を活かし、からだの中のことをイメージ出来るようにする。また、病棟で経験した医療支援や命を守る支援の事例から具体的に分かりやすく、からだとこころのしくみを介護の現場や学習者自身こととしても使える知識にしていく。

【到達目標】
介護サービスを提供する際の根拠を、こころとからだのしくみから述べることができる。
こころとからだのしくみが、生活行動に結びつき、その基盤となっていることが理解できる。
異常の早期発見や危険予測の上で、対応や医療職との連携について理解できる。

【使用教科書・教材・参考書】
・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」（中央法規）
・「介護福祉士国家試験受験ワークブック（中央法規）

【授業外における学習】
介護・医療における専門的用語は予め教科書を読み予習をすること。また授業後もノートやプリントを振り返り見返す等の復習し、学んだことを身につけること。

1	【到達目標】 授業の進め方と評価の方法について理解することができる。こころとからだのしくみを学ぶ意義を説明できる。 【授業内容】 授業オリエンテーション 健康と健康寿命　自己概念と尊厳	9	【到達目標】 なぜ私たちは身じたくを行うのかを理解し、介護の根拠を説明することができる。顔・眼・耳の構造と機能を記述することができる。 【授業内容】 身じたくの意義 顔・眼・耳の構造と機能
2	【到達目標】 人間の基本的欲求を説明することができ、どのように学習を行い、物事を記憶するのか述べることで、行動を引き起こすこころのしくみを理解する。 【授業内容】 マズローの基本的欲求・学習とは・記憶のしくみ 行動を引き起こすしくみ（意欲）	10	【到達目標】 鼻・口腔・つめ・毛髪の構造と機能を記述することができる。 からだを清潔にする効果を理解することができる。 【授業内容】 鼻・口腔・爪・毛髪の構造と機能 からだを清潔にする効果とは
3	【到達目標】 人間の感情や意欲・動機づけのしくみ及び適応のしくみを説明することができ、社会的人間としてのこころのしくみを理解することができる。 【授業内容】 喜怒哀楽の感情 適応のしくみ	11	【到達目標】 心身の機能が低下が身じたくに及ぼす影響を記述することができる。観察のポイントを理解し、医療職との連携を図る視点を理解することができる 【授業内容】 掻痒感と疼痛の介護 身じたくに関する観察のポイント・医療職との連携のポイント
4	【到達目標】 からだの部位の名称と役割を記述することができる。「すべてをコントロールする司令塔」の脳と神経系の構造と機能を記述することができる。 【授業内容】 からだの名称とその役割 脳の構造と機能	12	【到達目標】 私たちはなぜ移動をするのかを理解し、介護の根拠を説明することができる。移動に関わる骨や筋肉の構造と機能を理解することができる。 【授業内容】 移動の目的と意義 骨・筋肉・関節・腱の構造と機能
5	【到達目標】 「呼吸をする」呼吸器系の構造と機能を記述することができる。なぜ私たちは呼吸をするのか理解できる。 【授業内容】 呼吸とは 呼吸器系の構造と機能（外呼吸・内呼吸）	13	【到達目標】 姿勢の種類を動きで確認し理解することができる。 【授業内容】 姿勢の種類・歩行のしくみ ボディメカニクスの基礎知識
6	【到達目標】 全身に必要なものを送る循環器系の構造と機能を記述することができる。 からだを守る・必要なものを送り届ける血液の役割や機能を理解する 【授業内容】 循環器系の構造と機能 血液の機能	14	【到達目標】 心身の機能低下が移動に及ぼす影響を記述する事ができる。移動に関する観察のポイントと医療職との連携を図る視点を理解することができる。 【授業内容】 麻痺・拘縮・骨折の原因と予防介護 観察のポイントと医療職の連携のポイント
7	【到達目標】 命を生み出し、育む生殖器系の構造と役割を記述することができる。 からだの機能を調整する内分泌系の構造と機能を記述することができる。 【授業内容】 生殖器の構造と機能 内分泌器の構造と機能	15	【到達目標】 これまでの授業で学習したことをもとに、問題に答えることができる。 分からない問題の洗い出しを行い、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 定期試験
8	【到達目標】 前半で学んだ知識を確認することができ、不得意なところを見つけ自己学習につなげることができる。 【授業内容】 中間試験		

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	こころを支える心理学 Psychology that supports the mind	必修選択	必須	年次	1	担当教員	柳　忠宏
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜　4限

【実務経験】
臨床心理士、公認心理師。中学・高等学校の教諭として12年の教育臨床経験がある。専門学校のスクールカウンセラーとして、8年の心理臨床経験がある。

【授業の学習内容】
人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を学習する。
介護実践にかかわるカウンセリングの知識や心の病気について、体系的に学習する。
内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、チームマネジメントの基礎を学び、介護実践場面での素養を醸成する。

【到達目標】
対人援助職としてのカウンセリング・マインドの重要性を理解する。
カウンセリングの仕組みを理解し、コミュニケーション活動や援助に役立てる。
「障がい」「心の病気」の考え方、捉え方を身に付ける。

【使用教科書・教材・参考書】
教員が資料を提示する。

【授業外における学習】
心理学の専門的用語が出てくるので、分からない用語はネット検索を用いてもよい。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 カウンセリング技法を理解する 【授業内容】 オリエンテーション、カウンセリング技法1	9	【到達目標】 心理テストを理解する1 【授業内容】 心理テスト1
2	【到達目標】 カウンセリング技法を理解する 【授業内容】 カウンセリング技法2	10	【到達目標】 心理テストを理解する2 【授業内容】 心理テスト2
3	【到達目標】 カウンセリング技法を理解する 【授業内容】 カウンセリング技法3	11	【到達目標】 心理テストを理解する3 【授業内容】 心理テスト3
4	【到達目標】 カウンセリング技法を理解する 【授業内容】 カウンセリング技法4	12	【到達目標】 コミュニケーションスキルを理解する（認知行動療法） 【授業内容】 認知行動療法1
5	【到達目標】 心の病気を理解する 【授業内容】 心の病気	13	【到達目標】 コミュニケーションスキルを理解する（認知行動療法） 【授業内容】 認知行動療法2
6	【到達目標】 心の病気や障がいを理解する。 【授業内容】 心の病気や障がい	14	【到達目標】 コミュニケーションスキルを理解する（認知行動療法） 【授業内容】 認知行動療法3
7	【到達目標】 アートセラピーを理解する 【授業内容】 アートセラピー1	15	【到達目標】 カウンセリングのまとめをする 【授業内容】 カウンセリング総括、定期試験
8	【到達目標】 アートセラピーを理解する、途中経過のおさらいをする 【授業内容】 アートセラピー2、中間試験		

【特記事項】
板書したこと等は必ずメモをとること。

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	人間関係とコミュニケーション Relationships and Communication	必修選択	必須	年次	1	担当教員	吉江孝行
学科・コース	介護福祉学科	授業形態	講義	総単位時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 火曜3限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
特別養護老人ホームで介護職員（3年）・生活相談員（10年）・施設長（15年）としての職務とこの科目の講師（1年）それぞれの実務

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**
・上記の実務経験を活かして、介護実践におけるチームマネジメントの基礎的な知識や技術を講義と演習で学ぶ。
1　介護実践におけるチームマネジメントの意義（3回）
2　ケアを展開するためのチームマネジメント（3回）
3　人財育成・自己研鑽のためのチームマネジメント（4回）
4　組織の目標達成のためのチームマネジメント（3回）

【到達目標】
・上記のコミュニケーションの基礎的な知識や技術を理解する。

【使用教科書・教材・参考書】
・新・介護福祉士養成講座1「人間の理解」、「介護福祉士国家試験ワークブック上」、「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」 中央法規

【授業外における学習】
予習と復習

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 1　介護実践におけるチームマネジメントの意義（3回） ・介護サービスはサービスとしての特性をもつことを理解する ・ヒューマンサービスである介護サービスとほかのサービスとの相違点を学ぶ 【授業内容】 （1）ヒューマンサービスとしての介護サービス	9	【到達目標】 ・キャリアに求められる実践力、チームケアのために必要な実践力とは何かを学ぶ 【授業内容】 （2）介護福祉職としてのキャリアデザイン
2	【到達目標】 ・介護実践にチームマネジメントが必要とされる背景を理解する 【授業内容】 （2）介護現場で求められるチームマネジメント	10	【到達目標】 ・実践力を向上させるために必要な、OJT・OFF-JTをはじめととする人材育成のしくみを学ぶ 【授業内容】 （3）介護福祉職のキャリア支援・開発
3	【到達目標】 ・介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方を理解する 【授業内容】 （3）介護実践におけるチームマネジメントへの取り組み	11	【到達目標】 自身のキャリアを想定した自己研鑽のあり方・姿勢について学ぶ 【授業内容】 （4）自己研鑽に必要な姿勢
4	【到達目標】 2　ケアを展開するためのチームマネジメント（3回） ・ケアを展開するためのチームのあり方や機能について学ぶ 【授業内容】 （1）ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	12	【到達目標】 4　組織の目標達成のためのチームマネジメント（3回） ・質の高い介護サービスは組織的に支えられていることを理解する。 【授業内容】 （1）介護サービスを支える組織の構造
5	【到達目標】 ・チームでケアを展開するために必要な取り組みについて学ぶ 【授業内容】 （2）チームでケアを展開するためのマネジメント	13	【到達目標】 ・組織がどのような役割・機能をはたしているかを学ぶ 【授業内容】 （2）介護サービスを支える組織の機能と役割
6	【到達目標】 ・チームの力を最大化するためのリーダーシップ、フォロワーシップについて学ぶ 【授業内容】 （3）チームの力を最大化するためのマネジメント	14	【到達目標】 ・組織がどのような構造になっているか、どのように管理されているかを学ぶ 【授業内容】 （3）介護サービスを支える組織の管理
7	【到達目標】 3　人財育成・自己研鑽のためのチームマネジメント（4回） ・キャリアに求められる実践力、チームケアのために必要な実践力とは何かを学ぶ 【授業内容】 （1）介護福祉士職のキャリアと求められる実践力	15	【到達目標】 人財育成・自己研鑽のためのチームマネジメント、組織の目標達成のためのチームマネジメントを再確認する 【授業内容】 筆記試験
8	【到達目標】 介護実践におけるチームマネジメントの意義、ケアを展開するためのチームマネジメントを再確認する 【授業内容】 筆記試験		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	職業人教育 Professional Training Lecture	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	奥畑・保住
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後　期 金曜　　２限

【実務経験】**(担当する授業科目に関連した実務経験)**
看護師、介護福祉士として就業した専任教員として、社会に出た時に活躍できる人材となるよう授業を進めていく。

【授業の学習内容】**(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)**
”職業人教育”とは、社会に出た時に即戦力として活躍できるような人材を育成すること。授業内では、個人ワークやグループワークを行うことがある。
社会に出た時は、専門知識・技術以外にも人とのコミュニケーションが大事になりますので、ひとりひとりが積極的・協力的に参加することが大切である。
どんな仕事でも一人では行えません。チームで行うことが大半ですので、職業人になるための『身構え』・『気構え』・『心構え』を学ぶ。

【到達目標】
①社会人として求められる立ち振る舞い（挨拶・返事・言葉遣い・環境整備・時間管理）について理解するとともに、日常生活でも実践できるようになる。
②振り返るを重ねることで、自分の気持ちを文字で書いて伝えることができる。
③おもてなしマスター検定に合格することができる。

【使用教科書・教材・参考書】
Hand book of Life style
「おもてなしマスター」資格検定教本

【授業外における学習】

回	授　業　概　要
①	【到達目標】 ・(後期)　職業人教育の目的・内容・流れが理解できる。 ・オレンジカフェシミュレーションを通し、イメージをつける。 【授業内容】 ・職業人教育オリエンテーション　(後期) ・オレンジカフェの実施に向けて　　・席替え
②	【到達目標】職業実践 ・オレンジカフェを成功させる知識と技術を習得する。 【授業内容】 オレンジカフェについて理解する。
③	【到達目標】 ・実習に向けてコミュニケーション技術を習得する。 【授業内容】 ・現場でよくある、利用者や職員とのコミュニケーションをシミュレーションし技術を学ぶ。 ・コミュニケーションに生かせる自分の強みを知る。
④	【到達目標】 ・実習に向けて、文章の書き方をマスターし文章力を向上させる。 【授業内容】 ・実習に向けて、文章を書く時のコツを学ぶ。
⑤	【到達目標】実習前 ・事前調査、時間管理について理解することができる。 【授業内容】 ・実習に向けて最終チェックを行う。
⑥	【到達目標】職業実践 ・オレンジカフェシミュレーションを通し、イメージをつける。 【授業内容】 オレンジカフェ実施に向けてシミュレーション
⑦	【到達目標】※オレンジカフェ本番のため、早めに終了予定 ・中間試験に向けて振り返る。また多職種連携授業の内容を知る。 ・オレンジカフェを成功させる。 【授業内容】 ・第1回～第7回までの振り返りを実施、多職種連携授業の内容を伝える。 ・オレンジカフェ実践
⑧	【到達目標】 ・中間試験を実施し、第１～7回目の内容を振り返ることができる。 ・オレンジカフェの振り返り・国際教育について理解する。 【授業内容】 ・中間試験の実施 ・オレンジカフェの振り返りと国際教育の概要とスケジュール
⑨	【到達目標】※オレンジカフェ本番のため、早めに終了予定 ・『おもてなしマスター』資格検定教本に沿って重要ポイントを学ぶ。 ・オレンジカフェを成功させる。 【授業内容】 ・『おもてなしマスター』資格検定教本に沿って重要ポイントを学び、スキルを身に着ける。 ・オレンジカフェ実践
⑩	【到達目標】 ・『おもてなしマスター』資格検定教本に沿って重要ポイントを学ぶ。 【授業内容】 ・『おもてなしマスター』資格検定教本に沿って重要ポイントを学び、スキルを身に着ける。
⑪	【到達目標】職業実践① おもてなしマスター検定の過去問を振り返りスキルを身に着ける。 【授業内容】 ・おもてなしマスターの過去問を解く。 ・おもてなしのスキルを学ぶ。
⑫	【到達目標】職業実践 **・おもてなしマスター検定を受ける（予定）** ・12/22に行うお疲れ様会の計画をする。 【授業内容】 ・おもてなしマスター検定を受ける。 ・12/22に行うお疲れ様会の計画をする。
⑬	【到達目標】職業実践 ・次回行うお疲れ様会の計画をする。 ・オレンジカフェの実践 【授業内容】 ・オレンジカフェ実践
⑭	【到達目標】 １年間お疲れ様会を実施する。 【授業内容】 ・１年間を振り返り、学生同士が企画したものを実施する。
⑮	【到達目標】職業実践 ・定期試験を実施し、１年間を振り返ることで、成長した部分に気付くことができる。 ・オレンジカフェを成功させる。本番4回目 【授業内容】 ・１年間を振り返り、自分の言葉で文章にすることができる。 ・オレンジカフェ実践

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	介護の基本Ⅰ Basic nursing care	必修選択	必修	年次	1年生	担当教員	坪田　大仁
学科・コース	介護福祉科	授業形態	講義	総単位時間	60時間	開講区分 曜日・時間	後期 木曜　1・2　限

【実務経験】
通所や居宅介護支援事業所の管理者として9年間従事する。また、世代間交流の場や自費サービスの事業展開を行うなど、介護が果たす地域貢献についても取り

【授業の学習内容】
通所介護事業所の管理者や介護支援専門員として、様々なケースのご利用者様を支援してきました。これらの経験から、「正しい情報理解（アセスメント力）」の重要性や「状況に応じた対応力（応用力）」の必要性」を強く感じました。授業にあたっては、一方的な情報伝達に留まらず、情報をどのように活用するのか？といった視点も大切に「考える機会」を多用し、現場実践において必要な力が身につけられるよう学習を進めていきます。

【到達目標】
①介護福祉士に求められる職業倫理や倫理的判断に必要な視点・考え方を理解しよう。
②地域包括ケアシステムを含む介護（予防）システムを理解しよう。またリハビリテーションの視点から介護福祉士の役割を理解しよう。
③自立支援な視点から介護保険制度や障害福祉サービスの概要を理解しよう。

【使用教科書・教材・参考書】
「2023介護福祉士国家試験　受験ワークブック　上・下」
「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2023」中央法規（参考）

【授業外における学習】
介護に関する専門的な用語についてはあらかじめ予習してくること。授業後にも、使用したプリントなどを復習し、授業内容を身につけること。

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 個人の状況を的確に理解した上で必要な環境整備について理解できる。 （ICFにおける背景因子の関連性） 【授業内容】 介護福祉の基本原則③	9	【到達目標】 事例を用いて、生活のしづらさを抱える人の具体的支援について考えることができる。生活のしづらさがある人の暮らしがイメージできる。 【授業内容】 介護を必要とする人の理解①
2	【到達目標】 事例を用いて、ICFの概念を整理できる。ストレングスモデルの概念を理解する。 【授業内容】 自立に向けた介護	10	【到達目標】 事例を用いて高齢者の暮らしをアセスメントすることで、高齢者の暮らしがイメージできる。 【授業内容】 介護を必要とする人の理解②
3	【到達目標】 介護予防の目的と考え方が理解できる。地域包括ケアシステムと介護福祉士の役割について理解できる。（介護予防事業/サービス） 【授業内容】 自立支援と介護予防	11	【到達目標】 事例を用いて、障がいのある人の暮らしをアセスメントすることで、障がいのある人の暮らしがイメージできる。 【授業内容】 介護を必要とする人の理解③
4	【到達目標】 リハビリテーションの概念やその体系が理解できる。 保険・医療・福祉分野とリハビリテーションの関連性と内容が理解できる。 【授業内容】 自立支援とリハビリテーション	12	【到達目標】 フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて理解できる。 地域資源についての理解を深める。 【授業内容】 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ
5	【到達目標】 職業倫理について日本介後護福祉士会倫理綱領の内容が理解できる。 【授業内容】 介護福祉士の倫理①	13	【到達目標】 介護保険制度の目的と概要が理解できる。介護保険サービスの種類と概要が理解できる。 【授業内容】 介護保険サービス
6	【到達目標】 尊厳ある介護実践を行うための視点が理解できる。倫理的判断が必要な場面における判断の視点が理解できる。 【授業内容】 介護福祉士の倫理②	14	【到達目標】 障害福祉に関連する法制度とサービスを利用するまでの流れが理解できる。障害者総合支援法と障害福祉サービスの内容が理解できる。 【授業内容】 障害福祉サービス
7	【到達目標】 事例検討を通じて介護福祉士としての適切な倫理判断ができる。 【授業内容】 介護福祉士の倫理③	15	【到達目標】 授業の振返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 期末試験、解答解説
8	【到達目標】 授業の振返りを行い習熟度を確認する。不得意分野を明確にすることで適切なフォローアップができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	コミュニケーション技術	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	社会福祉法人　欣彰会 栃木　幸子　　栗原　法子
学科・コース	Communcation　technology	授業形態	演習	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後　期 水　曜　　3　限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
高齢者施設で介護職・相談職として20年以上勤務経験あり

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**
法人設立38年を迎える特別養護老人ホーム・デイサービスにおいて、介護福祉士、相談員、介護支援専門員など担い、20年以上にわたり実務経験を重ね現在に至る。これまでの経験知を踏まえ、介護における基本的なコミュニケーションの意義や目的を理解し、様々なニーズをもった利用者・ご家族、,多職種やチーム内の関係構築が図られるように、状態や状況に応じたコミュニケーション、介護実践に必要なコミュニケーション技術を習得できる学習を行う。

【到達目標】
障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得sる事ができる。
介護福祉職は、家族と協働していく支援のパートナーであることを理解し、利用者や家族の意向を円滑に調整する為のコミュニケ^ション手順を習得する。
情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、介護におけるチームコミュニケーションの技術を習得する。

【使用教科書・教材・参考書】
介護福祉士国試ナビ　2023　　中央法規
介護福祉士国家試験受験ワークブック　上　2023　　中央法規

【授業外における学習】
国試ナビワークブックによる予習、プリントや小テスト等を用いて復習し、知識・技術を身につける。

回	授　業　概　要
1	【到達目標】 実習時に,,利用者と互いに信頼しあい、良好な関係を築く為にジョハリの窓を活用し、コミュニケーション力を高める。 【授業内容】 講義、　演習（ジョハリの窓）　小テスト
2	【到達目標】 チームコミュニケーションについて理解する。記録を介して統一した介護実践の展開ができる事を知る。（記録の目的、種類を知る） 【授業内容】 講義　演習　小テスト
3	【到達目標】 チームコミュニケーションについて理解する。記録を介して統一した介護実践の展開ができる事を知る。（記録上の注意点を理解する） 【授業内容】 講義　　演習　　小テスト
4	【到達目標】 経過記録として、利用者とのやり取り記録する、プロセスレコードの目的を理解し、実際に作成する事ができる。 【授業内容】 講義　　演習　　小テスト
5	【到達目標】 うつ病、抑うつ状態の人へのコミュニケーションについて知る。 援助方法について理解する事ができる。 【授業内容】 講義　　演習　　小テスト
6	【到達目標】 自閉症がある人とのコミュニケーションについて知る。 援助方法について理解する事ができる。 【授業内容】 講義　　演習　　小テスト
7	【到達目標】 高次機能障害の症状を示す事ができる。高次機能障害のある人とのコミュニケーションについて知る。 【授業内容】 講義　　演習　　小テスト
8	【到達目標】 これまでの授業から、試験問題を解く事ができる。できなかった問題を把握し正しい知識とすることができる。 【授業内容】 中間テスト　　解答解説

回	授　業　概　要
9	【到達目標】 介護におけるチームコミュニケーションの目的について理解する。 【授業内容】 講義　　演習　　小テスト
10	【到達目標】 介護におけるチームコミュニケーションの目的について理解する。 報告相談連絡の意義と目的、方法を学ぶ。 【授業内容】 講義　演習　小テスト
11	【到達目標】 介護におけるチームコミュニケーションの目的について理解する。 多職種間のコミュニケーション、説明の技術を実践を通して学ぶ。 【授業内容】 講義　　演習　　小テスト
12	【到達目標】 介護におけるチームコミュニケーションの目的について理解する。 会議の種類・会議の進行の技術について学ぶ。 【授業内容】 講義　　演習　　小テスト
13	【到達目標】 介護におけるチームコミュニケーションの目的について理解する。 事故報告書、ヒヤリハット報告の目的を知る。 【授業内容】 講義　　演習　　小テスト
14	【到達目標】 介護におけるチームコミュニケーションの目的について理解する。 ICTによる情報活用、個人情報保護法について理解を深める。 【授業内容】 講義　演習　小テスト
15	【到達目標】 これまでの授業で学習した事の総まとめとして試験問題を解く事ができる。できなかった問題を把握し、正しい知識とする事ができる。 【授業内容】 定期試験　　解答解説

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	生活支援技術Ⅰ Nursing care skills Ⅰ	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	古市文子
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後 期 水 曜 1限・2 限

【実務経験】**(担当する授業科目に関連した実務経験)** 介護福祉士・社会福祉主事任用・介護支援専門員資格取得。
老人福祉施設(20年以上勤務)の従来型とユニットケアにてリーダー経験、実習指導者としての役割、現在介護長の役職で管理職。

【授業の学習内容】**(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)**
福祉施設での経験から地域で暮らす高齢者・障害者、施設生活の方が尊厳を保持し、その人らしい自立，自律を尊重し個別のニーズに対応できる安心のある生活支援となる知識・技術を学ぶ。 生活支援の意義や目的、ICFの視点、生活を多角的に支えるための多職種との連携チームアプローチのあり方を学ぶ。 自立に向けた居住環境、家事、福祉用具の基礎知識・技術を学ぶ。災害時における生活支援や、緊急時対応、応急手当の基礎的知識・技術を学ぶ。

【到達目標】
目指す介護福祉士としての感性を持って、個別性を理解した介護実践にいかすことができる基礎的な知識・技術を学ぶ。
・ICFの視点で利用者を捉え、自立に向けた生活支援、その人らしさの個別性を理解することができる。
・家事支援を行うための基礎知識と、多職種の役割を理解することができる。・高齢者に起こりやすい事故と予防、緊急時対応ができる。

【使用教科書・教材・参考書】
介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規)
見て覚える！介護福祉士国試ナビ(中央法規)

【授業外における学習】
コマシラバスに記載しているワークブック、国試ナビの該当ページを読み、予習する。授業後は小テスト、プリントで復習を行い覚えておくこと。。

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【到達目標】 介護保険制度の中でできる家事支援の理解。自立に向け、介護福祉士としてすべきことを理解することができる。 【授業内容】 家事の流れの中でその人が何ができて、何ができないのかICFの考えで捉え、訪問介護サービス等考える	9	【到達目標】 高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を理解することができる。 緊急時における連携のあり方を知る。 【授業内容】 想定される事故と予防について ・対象者への対応、判断に迷った場合について
2	【到達目標】 利用者の好みを尊重し、調理支援での基本と留意点を知ることができる。 【授業内容】 食事がその人にとって生活全般に影響があること、豊かな生活の大切な支援であることや調理の留意事項を知る	10	【到達目標】 介護職が行う応急手当のポイントを習得することができる。 【授業内容】 外傷・傷による出血した際の止血処置、骨折と疑われる症状の手当てについて・窒息、気道内遺物除去の緊急手当て等について
3	【到達目標】 洗濯支援の基本、社会問題となっているごみ問題等に気付いて支援できる重要性を理解することができる。 【授業内容】 在宅生活での生活支援洗濯、掃除、ごみ捨ての意義、介助について支援からの状態変化に気付く観察力について	11	【到達目標】 災害時の支援、被災地で活動する際の心構えや、活動前に知っておくべきことを理解することができる。 【授業内容】 災害直後生活支援の重要性、支援者としてのあり方について
4	【到達目標】 ICFの視点に基づく衣類。寝具の衛生管理と整理整頓の支援について理解できる。 【授業内容】 利用者の好みを尊重した支援を考える。衣類の廃棄、季節に適した衣替えの必要性・たたんでしまう支援について	12	【到達目標】 災害時(物資が不足している中)に介護福祉士が活動する場所での問題解決に向け実践できる知識を学ぶことができる。 【授業内容】 避難場所について、災害種別図記号、食事、排泄、睡眠、居住環境支援について
5	【到達目標】 ICFに基づく買い物の支援について理解することができる。 【授業内容】 在宅生活・施設生活での買い物の意義と支援について	13	【到達目標】 災害時支援体制が整ってきた後の知識、工夫、配慮等介護福祉士としての支援ができる知識を学ぶことができる。 【授業内容】 対象者の状態・状況に応じた環境整備、プライバシ確保、デッドスペース活用等について
6	【到達目標】 家庭経営、家計の管理について理解することができる。 【授業内容】 金銭管理が困難な状況になった時自治体などへつなぐ支援の対応策について ・最近の消費者問題等について	14	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返りながら、知識を深める。求められる介護福祉士を理想とすることができる。 【授業内容】 施設での事例から、めざす・理想とする介護福祉士を考え共感できることで振り返る
7	【到達目標】 家事の介護における多職種の役割と介護職との連携のあり方を理解することができる。 【授業内容】 在宅生活・施設入居それぞれ多職種との連携の重要性について	15	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り、問題に答えることができる。わからない問題は今後の課題とし、復習する。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、定期試験、解答解説
8	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り問題に答えることができる。わからない問題から、今後の学びの課題とし意欲を持って復習する。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説		

【特記事項】
普段の生活の中で見かける表示や図記号に関心を持っていて欲しい。
配布資料は保管すること。

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数 89～80点＝B評価
点数 79～70点＝C評価
点数 69～60点＝D評価
点数 59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	生活支援技術Ⅰ Nursing care skills Ⅰ	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	古市文子
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後 期 水 曜 1限・2 限

【実務経験】**(担当する授業科目に関連した実務経験)** 介護福祉士・社会福祉主事任用・介護支援専門員資格取得。
老人福祉施設(20年以上勤務)の従来型とユニットケアにてリーダー経験、実習指導者としての役割、現在介護長の役職で管理職。

【授業の学習内容】**(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)**
福祉施設での経験から地域で暮らす高齢者・障害者、施設生活の方が尊厳を保持し、その人らしい自立，自律を尊重し個別のニーズに対応できる安心のある生活支援となる知識・技術を学ぶ。 生活支援の意義や目的、ICFの視点、生活を多角的に支えるための多職種との連携チームアプローチのあり方を学ぶ。 自立に向けた居住環境、家事、福祉用具の基礎知識・技術を学ぶ。災害時における生活支援や、緊急時対応、応急手当の基礎的知識・技術を学ぶ。

【到達目標】
目指す介護福祉士としての感性を持って、個別性を理解した介護実践にいかすことができる基礎的な知識・技術を学ぶ。
・ICFの視点で利用者を捉え、自立に向けた生活支援、その人らしさの個別性を理解することができる。
・家事支援を行うための基礎知識と、多職種の役割を理解することができる。・高齢者に起こりやすい事故と予防、緊急時対応ができる。

【使用教科書・教材・参考書】
介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規)
見て覚える！介護福祉士国試ナビ(中央法規)

【授業外における学習】
コマシラバスに記載しているワークブック、国試ナビの該当ページを読み、予習する。授業後は小テスト、プリントで復習を行い覚えておくこと。。

回	授 業 概 要	回	授 業 概 要
1	【到達目標】 介護保険制度の中でできる家事支援の理解。自立に向け、介護福祉士としてすべきことを理解することができる。 【授業内容】 家事の流れの中でその人が何ができて、何ができないのかICFの考えで捉え、訪問介護サービス等考える	9	【到達目標】 高齢者に起こりやすい主な事故とその予防の視点を理解することができる。 緊急時における連携のあり方を知る。 【授業内容】 想定される事故と予防について ・対象者への対応、判断に迷った場合について
2	【到達目標】 利用者の好みを尊重し、調理支援での基本と留意点を知ることができる。 【授業内容】 食事がその人にとって生活全般に影響があること、豊かな生活の大切な支援であることや調理の留意事項を知る	10	【到達目標】 介護職が行う応急手当のポイントを習得することができる。 【授業内容】 外傷・傷による出血した際の止血処置、骨折と疑われる症状の手当てについて・窒息、気道内遺物除去の緊急手当て等について
3	【到達目標】 洗濯支援の基本、社会問題となっているごみ問題等に気付いて支援できる重要性を理解することができる。 【授業内容】 在宅生活での生活支援洗濯、掃除、ごみ捨ての意義、介助について支援からの状態変化に気付く観察力について	11	【到達目標】 災害時の支援、被災地で活動する際の心構えや、活動前に知っておくべきことを理解することができる。 【授業内容】 災害直後生活支援の重要性、支援者としてのあり方について
4	【到達目標】 ICFの視点に基づく衣類。寝具の衛生管理と整理整頓の支援について理解できる。 【授業内容】 利用者の好みを尊重した支援を考える。衣類の廃棄、季節に適した衣替えの必要性・たたんでしまう支援について	12	【到達目標】 災害時(物資が不足している中)に介護福祉士が活動する場所での問題解決に向け実践できる知識を学ぶことができる。 【授業内容】 避難場所について、災害種別図記号、食事、排泄、睡眠、居住環境支援について
5	【到達目標】 ICFに基づく買い物の支援について理解することができる。 【授業内容】 在宅生活・施設生活での買い物の意義と支援について	13	【到達目標】 災害時支援体制が整ってきた後の知識、工夫、配慮等介護福祉士としての支援ができる知識を学ぶことができる。 【授業内容】 対象者の状態・状況に応じた環境整備、プライバシ確保、デッドスペース活用等について
6	【到達目標】 家庭経営、家計の管理について理解することができる。 【授業内容】 金銭管理が困難な状況になった時自治体などへつなぐ支援の対応策について ・最近の消費者問題等について	14	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返りながら、知識を深める。求められる介護福祉士を理想とすることができる。 【授業内容】 施設での事例から、めざす・理想とする介護福祉士を考え共感できることで振り返る
7	【到達目標】 家事の介護における多職種の役割と介護職との連携のあり方を理解することができる。 【授業内容】 在宅生活・施設入居それぞれ多職種との連携の重要性について	15	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り、問題に答えることができる。わからない問題は今後の課題とし、復習する。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、定期試験、解答解説
8	【到達目標】 これまでの授業内容を振り返り問題に答えることができる。わからない問題から、今後の学びの課題とし意欲を持って復習する。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説		

【特記事項】
普段の生活の中で見かける表示や図記号に関心を持っていて欲しい。
配布資料は保管すること。

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数 89～80点＝B評価
点数 79～70点＝C評価
点数 69～60点＝D評価
点数 59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	生活支援技術Ⅱ Nursing care skills Ⅱ	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	月曜：窪田、田村、保住 水曜日：田村、保住
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	演習	総単位時間	90時間	開講区分 曜日・時間	後期 月曜1,2限/3,4限　水曜1限/2限

【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)
介護福祉士として、就業した講師、専任教員が技術、知識を学生に還元し、プロの介護福祉士の育成を行う。

【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)
自分も相手も大切する介護サービスを学ぶ。介護福祉士の介護技術や気遣いの理由を知り、
何故、なんでという根拠を理解することが、相手の立場に立った優しい介護になることを学習する。

介護は生活であり、生きていく中で誰もが関係していくことになる。人間らしい生活をするために、多くの人と関わること、多くの人で1人を支える重要さを学ぶ。

【到達目標】
利用者に合わせた介助方法を相手の立場に立って考えることができる
介助方法は多種多様であることを理解し、様々やり方があり自分に合った方法を考えることができる
2次実習に向けて実践力を付ける

【使用教科書・教材・参考書】
介護福祉士国家試験受験ワークブック上下(中央法規)
見て覚える!介護福祉士国家試験ナビ(中央法規)

【授業外における学習】
自ら学習して授業の際には、それを発揮する場になる授業方法となる
学習を身に着けられるような、学習方法を考え実践することが必要

回	授業概要
1 ①8/21 ②8/23	【到達目標】 ①前期の授業を振り返り事例検討できる ②食べることの喜びとリスクを知ることができる 【授業内容】 ①事例展開を行う ②オリエンテーション・食事を食べるとはを考える
2 ①8/28 ②8/30	【到達目標】 ①食事の介助をするときに注意点や観察することを学ぶことができる ②食事を食べることの楽しみ、リスクを考えることができる 【授業内容】 ①食事のセッティング、おいしい食事提供方法(マナー)、食事介助 ②利用者の状態に応じた食事介助の留意点
3 ①9/4 ②9/6	【到達目標】 ①ベッド上で食事をする状態とは？どのような気持ちか理解することができる ②お風呂に入る意味って？何？ 【授業内容】 ①ベッド上での食事介助 ②お風呂に入ることの喜びやリスクを知る
4 ①9/11 ②9/13	【到達目標】 ①手浴・足浴の技術の習得 ②利用者さんの状態に合わせたお風呂介助を学ぶことができる 【授業内容】 ①手浴・足浴・洗髪(ケリーパッドの作成)の部分浴介助技術の実践 ②清拭ってなに？
5 ①9/18 ②9/20	【到達目標】 ①清拭の介助技術を習得 ②入浴の時のリスクを学ぶことができる 【授業内容】 ①お風呂に入れない利用者さんを綺麗になっていただくために ②病気がある方のお風呂介助で気を付けることを学ぶ
6 ①9/25 ②9/27	【到達目標】 ①実際に入浴を体験して介助される側の気持ちを理解する ②排泄をするってどんだけ大切なの？ 【授業内容】 ①入浴介助方法を学ぶ(AM:男子・PM:女子) ②排泄の意味を考える
7 ①10/23 ②10/18	【到達目標】 ①6回までの授業を振り返り、応用できるよう自ら考える ②6回までの授業も再度確認し、記憶を定着することできる 【授業内容】 ①6回までの授業を現場で実習する力をつける ②6回までの授業の復習と整理をする
8 ①10/30 ②10/25	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、試験(筆記試験、実技試験)に望むことができる 【授業内容】 中間試験(技術試験・筆記試験)
9 ①11/1 ②11/13	【到達目標】 ①羞恥心を守りながら、安全にトイレ・ポータブルトイレ介助することができる ②排泄する大切さを知ることができる 【授業内容】 ①トイレ・ポータブルトイレ介助することができる ②便秘や頻尿に関して介助の注意点を学ぶ
10 ①11/20 ②11/15	【到達目標】 ①オムツ交換をされる人の気持ち、オムツに排泄する気持ちを知る ②トイレが理解できなくなるとどのようなリスクがあるか学ぶ 【授業内容】 ①オムツ交換を行う ②排泄の一連の流れを学ぶ
11 ①11/27 ②11/22	【到達目標】 ①排泄介助の場面を現場の事例を用いながら、臨機応変な対応を考える ②看取るとは？を時代背景と共に考えることができる。 【授業内容】 ①排泄介助の場面を現場の事例を用いながら介助方法を考える ②看取りとは？を考える
12 ①12/4 ②11/29	【到達目標】 ①ベッド上での介助が必要な方とは？リスクを考えながら介助を行う ②看取りの際の苦痛緩和に関して学ぶことができる 【授業内容】 ①ベッド上のシーツ交換 ②苦痛緩和を学ぶ
13 ①12/11 ②12/6	【到達目標】 ①安全にベッド上での着脱、浴衣をすることができる ②人を看取る側、看取られる側の気持ちを考えることができる 【授業内容】 ①ベッド上での着脱、浴衣の交換 ②リメンバーミーを見ながら介護としてできることを考える
14 ①12/18 ②12/13	【到達目標】 ①9回から13回までの授業を振り返り、応用できるよう自ら考える ②9回から13回までの授業を再度確認し、記憶を定着することができる 【授業内容】 ①13回の授業を現場で実践できる力をつける ②13回までの授業の復習と整理をする
15 ①12/25 ②12/20	【到達目標】 これまでの授業を振り返り、試験(筆記試験、技術試験)に臨むことができる 【授業内容】 定期試験(実技試験・筆記試験)

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価

科目名（英）	介護過程 Care Work Process	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	田母神　由美
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	60	開講区分 曜日・時間	後　期 火 曜　　1限 ・ 2 限

【実務経験】**(担当する授業科目に関連した実務経験)**
高齢者施設(入所、通所、在宅)や障害者施設(共同生活支援、就労支援、相談業務)など30年以上の実務経験もち現在も現場で支援を行っている。

【授業の学習内容】**(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)**
介護が必要とされる対象者自身が【望む生活】、【よりよい人生】を実現するため、専門的知識を活用し生活上の課題解決に向けて取り組むプロセスを学ぶ科目である。担当教員が実際に日常で起きている様々な事例や知識を生かし伝えることで、何を考えどのような生活を送りたいのかなど、相手の想いに寄り添い状態に合わせた自立支援の方法を理解してほしい。

【到達目標】
・介護過程の目的、意義を理解することができる。
・介護過程を展開する一連のプロセスを理解することができる。
・介護過程を展開するための情報共有の方法や各職種の役割を理解することができる。

【使用教科書・教材・参考書】
・介護福祉士養成講座9「介護過程」 中央法規
・介護福祉士　受験ワークブック　2023下　中央法規

【授業外における学習】
専門的用語や小テストの内容など習得できているかを確認し授業に備える。

回	授　業　概　要	回	授　業　概　要
1	【到達目標】 個別ケアの提供における介護計画の立案方法について学び、記述方法を理解することができる 【授業内容】 介護計画の立案①　様式1	9	【到達目標】 ケアマネジメントの理念や目的、構成要素について学び、全体像を理解することができる 【授業内容】 介護過程とケアマネジメントの重要性　　事例Aさん　様式1
2	【到達目標】 介護計画における介護目標の必要性と設定方法について理解することができる 【授業内容】 介護計画の立案②　様式1	10	【到達目標】 個別援助計画はケアプランを受けて、その目標を達成するためにより具体的で専門的な計画を立案する方法を理解することができる 【授業内容】 ケアプランと個別援助計画の関係性　　事例Aさん　様式1
3	【到達目標】 5W1Hについて確認し記述方法を理解することができる 【授業内容】 介護計画の立案③　様式1	11	【到達目標】 チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解し、連携が必要な他職種について理解することができる 【授業内容】 チームアプローチの意義　　事例Aさん　様式2
4	【到達目標】 介護過程における実施の意義と留意点を理解することができる 【授業内容】 介護の実施　　様式2	12	【到達目標】 様々な福祉現場で他職種との連携がどのような場面で必要かを考え、チームアプローチの必要性を理解することができる 【授業内容】 チームアプローチの実際　　事例Aさん　様式2
5	【到達目標】 介護の実践の場において、実践の証明として貴重な業務である記録について理解することができる 【授業内容】 記録の実施　　様式2	13	【到達目標】 情報収集やアセスメントを行う際の留意点などを理解することができる 【授業内容】 事例Aさん　様式2　まとめ
6	【到達目標】 支援することにより生活課題が解決に向かっているのかを確認する方法を理解することができる 【授業内容】 評価の意義と目的　　様式2	14	【到達目標】 実習時に作成する書式を再確認し記載方法を理解することができる 【授業内容】 2次実習に向けての確認
7	【到達目標】 心身状態を観察する方法を理解し、情報を共有する介護チームとの連携の重要性を理解することができる 【授業内容】 介護過程の展開　　様式2　　事例Aさん	15	【到達目標】 後期の授業で学んだ理解度を確認し、不明な点は再度確認する 【授業内容】 定期試験・後期授業の振り返り
8	【到達目標】 介護過程の必要性、仕組みを理解することができる 【授業内容】 介護過程のまとめ・中間テスト　　事例Aさん		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	介護総合演習Ⅰ Basic nursing care	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	奥畑　田村　保住
学科・コース		授業形態	演習	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後 期 木 曜　　4 限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
介護福祉士、看護師としての経験

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。

【到達目標】
・介護実習の効果を上げるため、事前に実習する施設や事業所について理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。
・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うことができる。

【使用教科書・教材・参考書】
実習と記録　介護福祉士編　一般財団法人慈慶教育科学研究所
新・介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習（参考図書）

【授業外における学習】
実習に関連する情報の管理を適切に行なうこと。
実習日誌および実習課題等は期日を守り提出すること。

回	授　業　概　要
1 8/24	【到達目標】 実習Ⅰのねらいと実習モデルについて理解する① 【授業内容】 実習Ⅰのねらいとモデル 利用者との出会い、その暮らしを知る介護実習
2 8/31	【到達目標】 実習Ⅰのねらいと実習モデルについて理解する② 【授業内容】 利用者とのコミュニケーションの実際
3 9/7	【到達目標】 実習前の学習を行うことができる① 【授業内容】 実習課題の取り組みについて 実習要綱の読み合わせ　実習指導内容と実習評価
4 9/14	【到達目標】 実習前の学習を行うことができる② 【授業内容】 実習帰校日と教員による巡回について 実習課題と実習目標と日誌の書き方の振り返り
5 9/21	【到達目標】 第2次実習の準備ができる① 【授業内容】 介護技術の実践を軸にした介護実習　**※頭髪チェック** 第2次実習のねらい
6 9/28	【到達目標】 第2次実習の準備ができる① 【授業内容】 食事支援、移動・移乗の実際
7 10/19	【到達目標】 第2次実習の準備ができる② 【授業内容】 入浴支援、排泄支援の実際
8 10/26	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 中間試験
9 11/2	【到達目標】 第2次実習の準備ができる③ 【授業内容】 第2次実習の全体目標 個人目標
10 11/16	【到達目標】 第2次実習の準備ができる④ 【授業内容】 1日の目標の立て方 実習日誌の書き方
11 11/23	【到達目標】 第2次実習の準備ができる⑤ 【授業内容】 実習日誌の書き方 実習生紹介書の作成
12 11/30	【到達目標】 第2次実習の準備ができる⑥ 【授業内容】 実習生紹介書の作成　　実習先の通学について 実習課題の取り組みについて
13 12/7	【到達目標】 第2次実習の準備ができる⑦ 【授業内容】 実習課題の取り組みについて 実習で必要なマナー
14 12/14	【到達目標】 第2次実習の準備ができる⑦ 【授業内容】 実習要綱 実習指導内容と実習評価
15 12/21	【到達目標】 学びの振り返り 【授業内容】 定期試験

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	発達と老化の理解 Comorehension of growth and aging	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	白井良江
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 水 曜　4限

【実務経験】
大学病院内分泌代謝科・訪問看護・有料老人ホームに勤務し、看護師として25年以上の経験を持つ。

【授業の学習内容】
病院勤務から介護福祉施設まで、医療や介護にかかわる経験をいかし、イラストや写真を見ながら医学的基礎知識を説明する。実体験から、印象に残る話をまじえて伝える。老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響、それらに合わせてどのような対応や配慮が必要か、理解を深めてほしい。

【到達目標】
老化に伴う心身の機能変化が、高齢者の心理や日常生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。
老化に伴う心身の機能変化に合わせて、どのような対応や配慮が必要であるか理解を深められる。

【使用教科書・教材・参考書】
2023　介護福祉士国家試験　受験ワークブック　上
2023　介護福祉士国試ナビ

【授業外における学習】
「こころとからだ」と重複する点があるが、老化の視点からも理解を深める。

回	授業概要	回	授業概要
1	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 息切れ・息苦しさ	9	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 歯・口腔の病気　目の病気
2	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 皮膚の異常・不眠・便秘・下痢	10	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 耳の病気　腎・泌尿器の病気
3	【到達目標】 高齢者の疾病と生活上の留意点を理解できる。 【授業内容】 誤嚥・出血・熱中症	11	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 脳・神経系疾患（脳血管障害を含む）
4	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 生活習慣病（脳血管障害）	12	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 消化器疾患・高齢者におこりやすい感染症
5	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 生活習慣病（高血圧・糖尿病・脂質異常）	13	【到達目標】 保健医療職との連携・薬剤の知識が理解できる。 【授業内容】 チームケア・薬剤の基礎知識
6	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 生活習慣病（悪性新生物）	14	【到達目標】 ふりかえり 【授業内容】 ポイント学習
7	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 生活習慣病（不整脈・心房細動・心疾患）	15	【到達目標】 これまでの授業で学習した内容が定着する。 解答解説から、自分の理解度を知る。 【授業内容】 定期試験 解答解説
8	【到達目標】 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点が理解できる。 【授業内容】 中間試験 痛風・腎不全		

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	認知症の理解 Comprehension of dementia	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	田嶋　知美
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 金曜　　1限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
特別養護老人ホームにて3年間介護職員として働き、その後もデイサービスや訪問マッサージ等での実務経験を持つ。

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**
福祉専門学校を卒業後、特別養護老人ホームにて介護職員として勤務し、その後も特別養護老人ホームやデイサービス、訪問マッサージなどで約5年の実務経験を持ち、現在も特別養護老人ホームにて介護職員として勤務している。本科目は認知症の本質や心理状態、特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を習得する。

【到達目標】
・認知症の方を取り巻く制度やサポート体制を理解し、活用方法を理解することができる。
・認知症に関する基礎的知識を取得し、認知症の方への対応や家族への支援方法を習得するできる。
・住み慣れた地域で認知症の方が暮らせるための環境について理解することができる。

【使用教科書・教材・参考書】
・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」（中央法規）
・「介護福祉士国家試験受験ワークブック」（中央法規）

【授業外における学習】
認知症に関わる専門用語や疾患名など聞きなれない言葉が出てくるため、予習を行い、配布資料もとに復習を行うこと。

回	授　業　概　要
1	【到達目標】 パーソン・センタード・ケアについて理解できる。 【授業内容】 前期の振り返り パーソン・センタード・ケア
2	【到達目標】 認知症の人の言動の背景にはさまざまな要因が影響していることを学ぶ。 【授業内容】 認知症の特性を踏まえたアセスメントツール センター方式シート、ひもときシート
3	【到達目標】 終末期における高齢者の状態を理解できる。終末期における認知症の人の特徴を理解できる。 【授業内容】 認知症の人の終末期医療と介護
4	【到達目標】 国が認知症施策として掲げている新オレンジプランの成立経緯を学ぶ。 【授業内容】 制度、サービス、機関、地域づくり 地域におけるサポート体制、認知症サポーター
5	【到達目標】 認知症サポーター養成講座を体験し、地域や職域で、認知症の人や家族に対して支援する力を習得することができる。 【授業内容】 認知症サポーター養成講座
6	【到達目標】 コミュニケーションの基本的な事柄や、認知症の人とのコミュニケーションにおける留意点について理解できる。 【授業内容】 認知症の人に対するコミュニケーション①
7	【到達目標】 認知症の人へのさまざまなアプローチを学ぶ。 【授業内容】 認知症の人に対するコミュニケーション② バリデーション・エマニチュード・回想法
8	【到達目標】 これまでの授業を振り返り学習を深め、問題に答えることができる。分からない問題の洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、中間試験、解答解説
9	【到達目標】 認知機能障害による生活への影響を理解できる。認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる。 【授業内容】 認知症の人へのケア① 日常生活のケア
10	【到達目標】 認知機能障害による生活への影響を理解できる。認知症の人の生活障害へのケアについて理解できる。 【授業内容】 認知症の人へのケア② BPSDのケア
11	【到達目標】 環境の要素を理解し、特に認知症の人にとっての物理的環境の役割と重要性を知る。 【授業内容】 環境づくり
12	【到達目標】 多職種が協働して認知症の人を支える意義やチームアプローチにおける介護職の役割を説明できる。 【授業内容】 多職種連携と協働 チームアプローチ
13	【到達目標】 家族介護者の介護の大変さを知り、レスパイトの重要性を理解することができる。 【授業内容】 家族への支援 家族会と介護教室
14	【到達目標】 介護福祉職が介護現場でやりがいをもって、安心して働き続けられる環境を整備する方法を学ぶ。 【授業内容】 介護福祉職への支援
15	【到達目標】 これまでの授業で学習したことをもとに、問題に答えることができる。分からない問題の洗い出し、自分の課題を見つけることができる。 【授業内容】 これまでの授業の振り返り、期末試験、解答解説

【特記事項】
重要なポイントは必ずメモをとること。
配布資料を振り返りに活用すること。

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価

科目名（英）	こころとからだのしくみ Organization of mind body's	必修選択	必修	年次	1年	担当教員	奥畑　幸一郎
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総時間（単位）	30時間	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日　3限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
看護師として、病院で手術室・呼吸器、泌尿器、脳神経の内科病棟での経験を持つ。

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**

【授業の学習内容】
本科目は、介護の根拠となる人体の構造や機能を学ぶ。介護を行う上で、対象の安全への留意点や心理的側面への配慮について理解を目指していく。手術室勤務において、からだの構造を直に見た教員自身の経験を活かし、からだの中のことをイメージ出来るようにする。また、病棟で経験した医療支援や命を守る支援の事例から具体的に分かりやすく、からだとこころのしくみを介護の現場や学習者自身こととしても使える知識にしていく。

【到達目標】
介護サービスを提供する際の根拠を、こころとからだのしくみから述べることができる。
こころとからだのしくみが、生活行動に結びつき、その基盤となっていることが理解できる。
異常の早期発見や危険予測の上で、対応や医療職との連携について理解できる。

【使用教科書・教材・参考書】
・「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」（中央法規）
・「介護福祉士国家試験受験ワークブック（中央法規）

【授業外における学習】
介護・医療における専門的用語は予め教科書を読み予習をすること。また授業後もノートやプリントを振り返り見返す等の復習し、学んだことを身につけること。

1	【到達目標】 なぜ食事をするのか、食事にはどのような意味があるのかを理解でき、介護の根拠を説明することができる。 【授業内容】 授業オリエンテーション 食事の意義・消化器系の構造と機能	9	【到達目標】 「からだにとって不要なものを出す」泌尿器系の構造と機能を記述することができる。 【授業内容】 泌尿器の構造と機能
2	【到達目標】 食事する段階（プロセス）を説明することができ、アセスメントの視点を理解することができる。食欲や味覚を感じるしくみを記述することができる。 【授業内容】 摂食嚥下のプロセス 食欲や味覚を感じるしくみ	10	【到達目標】 尿の生成のしくみおよび便の生成のしくみを記述することができる。排泄の意味があるのかを理解し、介護の根拠を説明することができる。 【授業内容】 尿の生成のしくみ 排泄の意義
3	【到達目標】 心身の機能低下が食事に及ぼす影響を記述することができる。食事に関する観察のポイントと医療職との連携を図る視点を記述することができる。 【授業内容】 食事運動・咀嚼嚥下・消化吸収機能・脱水について	11	【到達目標】 心身の機能低下が及ぼす影響を記述することができる。排泄に関する観察のポイントと医療職との連携を図る視点を記述することができる。 【授業内容】 排泄運動・視覚・消化機能・腎機能について 観察のポイントと医療職との連携のポイント
4	【到達目標】 入浴に関わる皮膚・頭髪の構造と機能および陰部の清潔と尿路感染の予防について記述することができる。 【授業内容】 皮膚の構造と機能 尿路感染の予防ケア	12	【到達目標】 薬の基本的な取り扱いについて理解することができる。 介護福祉士が実施する内服の支援する技術を習得する。 【授業内容】 薬の吸収と排泄・薬の種類と効果・服薬時間について 介護福祉士が実施する内服も支援
5	【到達目標】 なぜ入浴し、からだを清潔にするのか、入浴の効果を理解し、介護の根拠を説明することができる。皮膚の汚れと発汗のしくみを理解する。 【授業内容】 入浴の意義 皮膚の汚れと発汗のメカニズムとその影響について	13	【到達目標】 高齢者に多い疾患に用いる薬の内服方法やケアの仕方を習得する。 【授業内容】 内服時の事故と予防の方法 副作用の種類・主な疾患と薬について
6	【到達目標】 心身の機能低下が入浴に及ぼす影響を記述することができる。入浴・清潔保持に関する観察のポイントと医療職との連携を図る視点を理解する。 【授業内容】 入浴動作・循環機能・皮膚・生体への負荷・入浴事故について	14	【到達目標】 後期で学んだ知識を確認することができ、不得意なところを見つけ自己学習につなげることができる。 【授業内容】 1年間の振り返り これまで学んだ内容を復習する。
7	【到達目標】 バイタルサインとは何かを理解し、測定することができる。日々の健康を保つために何が必要か考えることができる 【授業内容】 バイタルサインとは 体温・血圧・脈拍・意識の測定方法と値の意味	15	【到達目標】 これまでの授業で学習したことをもとに、問題に答えることができる。 分からない問題の洗い出しを行い、自分の課題を見つけることができ 【授業内容】 定期試験
8	【到達目標】 前半で学んだ知識を確認することができ、不得意なところを見つけ自己学習につなげることができる。 【授業内容】 中間試験		

【特記事項】

【評価について】

筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）

科目名（英）	グローイングアップアカデミー Growing up academy	必修選択	必須	年次	1年	担当教員	奥畑・保住
学科・コース	介護福祉士科	授業形態	講義	総単位時間	30	開講区分 曜日・時間	後　期 金曜　　3 限

【実務経験】**（担当する授業科目に関連した実務経験）**
看護師、介護福祉士として就業した専任教員として、社会に出た時に活躍できる人材となるようオレンジカフェの実施を中心に授業を進めていく。

【授業の学習内容】**（どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか）**
本授業は、地域包括支援センターと連携し、学内自習として学内オレンジカフェ（認知症カフェ）を実施することを目標とし、その企画・運営を行う。
学生自身が内容や運営に必要なものを考え、クラス全員が地域高齢者と交流することで、職業観を高める。
また、教員から教わるだけではなく先輩やクラスメイト同士で学び合い教え合い、協働するとことを学んでほしい。

【到達目標】
学内認知症カフェの企画・運営を通じて、
①認知症への理解を深めることができる。②地域包括支援センターの職員の方々とコミュニケーションを図り、地域のニーズのを知ることができる。
③企画・運営を通じて、実施までのプロセスを体験し、流れを理解することができる。

【使用教科書・教材・参考書】

【授業外における学習】

回	授　業　概　要
①	【到達目標】オリエンテーション・概要説明 地域包括支援センターの地域的な機能について理解できる。 【授業内容】 ・グローイングアップアカデミーの全体像とスケジュール説明 ・地域包括支援センターとは？調べ学習を実施。
②	【到達目標】 ・国際教育とパラスポーツについて理解することができる。 【授業内容】 ・2年生より、国際教育とパラスポーツについて説明してもらう。
③	【到達目標】学内認知症カフェの準備（1） ・地域包括支援センターについて理解を深めることができる。 ・介護者サロンとオレンジカフェの違いを理解できる。 ・オレンジカフェの対象者と効果を考えることができる。 【授業内容】 ・地域包括支援センターについて理解を深めることができる。 ・介護者サロンとの違いを学ぶ。 ・オレンジカフェ10の特徴を知ることができる。
④	【到達目標】学内認知症カフェの準備（2） ・コロナ禍でのオレンジカフェの注意事項が分かる。 ・認知症の方との接し方・留意点を理解することができる。 ・オレンジカフェのチーム発表・役割を決めることができる。 【授業内容】 ・感染症について理解する。 ・認知症の方との接し方と具体例について学ぶ。 ・各チーム・各自の役割を決める。
⑤	【到達目標】オレンジカフェの準備 2年生から1年生へ、準備から本番までの流れを説明してもらい、当日の流れがイメージできる。 【授業内容】 ・2年生から1年生へ準備から本番までの流れを説明する。 ・運営上の改善点などを共有する。
⑥	【到達目標】オレンジカフェの準備　A 地域包括支援センター職員にシミュレーションの様子を見て頂き、運営上の課題を発見することができる。（Aチーム） 【授業内容】 ・シミュレーションを実施し、流れを理解する。 ・運営上の改善点などを共有する。
⑦	【到達目標】オレンジカフェ　本番（1）　Aチーム オレンジカフェの運営をスムーズに行うことができる。 参加していただいた方々を楽しませることができる。 【授業内容】 Aチームが運営、Bチームは次回の準備
⑧	【到達目標】オレンジカフェの準備　B シミュレーションを行い、運営上の課題を発見することができる。（Bチーム） 【授業内容】 ・シミュレーションを実施し、流れを理解する。 ・運営上の改善点などを共有する。
⑨	【到達目標】オレンジカフェ　本番（2）　Bチーム オレンジカフェの運営をスムーズに行うことができる。 参加していただいた方々を楽しませることができる。 【授業内容】 Bチームが運営、Aチームは次回の準備
⑩	【到達目標】オレンジカフェ初回振り返り 当日の運営を振り返り、できたことや改善点を明確にできる。 次回実施に向けて、対策を立てることができる。 【授業内容】 ・A・Bチームのそれぞれの気づきを共有する。 ・次回に向けての対策を立てる。
⑪	【到達目標】オレンジカフェの準備　A・B 前回立てた対策に沿って準備をすることができる。 【授業内容】 ・次回に向けての準備ができる。
⑫	【到達目標】オレンジカフェの準備　A・B シミュレーションを行い、運営上の課題を発見することができる。 【授業内容】 次回の本番に向けて最終調整する。 3限：Aチーム　　4限：Bチーム
⑬	【到達目標】オレンジカフェ　本番（3）　Aチーム オレンジカフェの運営をスムーズに行うことができる。 参加していただいた方々を楽しませることができる。 【授業内容】 Aチームが運営、Bチームは次回の準備
⑭	【到達目標】 定期試験を実施し、合格することができる。 【授業内容】 定期試験の実施。
⑮	【到達目標】オレンジカフェ　本番（4）　Bチーム オレンジカフェの運営をスムーズに行うことができる。 参加していただいた方々を楽しませることができる。 【授業内容】 Bチームが運営、Aチームは次回の準備

【特記事項】

【評価について】
筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。
〇成績評価
点数100～90点＝A評価
点数　89～80点＝B評価
点数　79～70点＝C評価
点数　69～60点＝D評価
点数　59点以下＝F評価
※出席が70%に満たない場合はE評価